

第 1 3 回川崎病全国調査成績

厚生省川崎病研究班

[連絡先] 〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病研究班疫学調査事務局
(事務連絡担当：屋代真弓)
TEL 0285-44-2111(内3109)

平成 7 年 8 月 3 1 日

第13回川崎病全国調査成績

はじめに

1970年に第1回川崎病全国調査が実施された¹⁾。それ以来合計12回の全国調査が行なわれ、1992年12月末までの患者が把握されていたが²⁻¹⁹⁾、今回1993年1月～1994年12月の2年間の患者を対象に第13回川崎病全国調査を実施した。2年間の調査成績より、報告患者数、性年齢分布、同胞例、再発例、心後遺症例、治療状況等の疫学特性を明らかにしたのでその概要を報告する。

I. 方法

第13回川崎病全国調査は、1993年1月1日より1994年12月31日の2年間に小児科を併設する100床以上の病院、および小児科のみを標榜する100床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象にした。調査を依頼した施設のリストは、厚生省健康政策局総務課編「病院要覧1994年版」（医学書院発行）によって作成した。対象施設数は2,640か所であった。（添付の調査票参照）

II. 調査結果

1. 回収率

調査依頼施設2,640か所のうち、1,730施設から回答が得られ、回収率は65.5%であった。そのうち、患者報告があった施設は1,063施設（回収施設の61.4%）であった。都道府県別回収状況（調査依頼施設数、回答施設数、回収率等）は表1に示すとおりであり、最も回収率の高いところは和歌山県79.2%、最も低いところは長野県の51.9%であった。

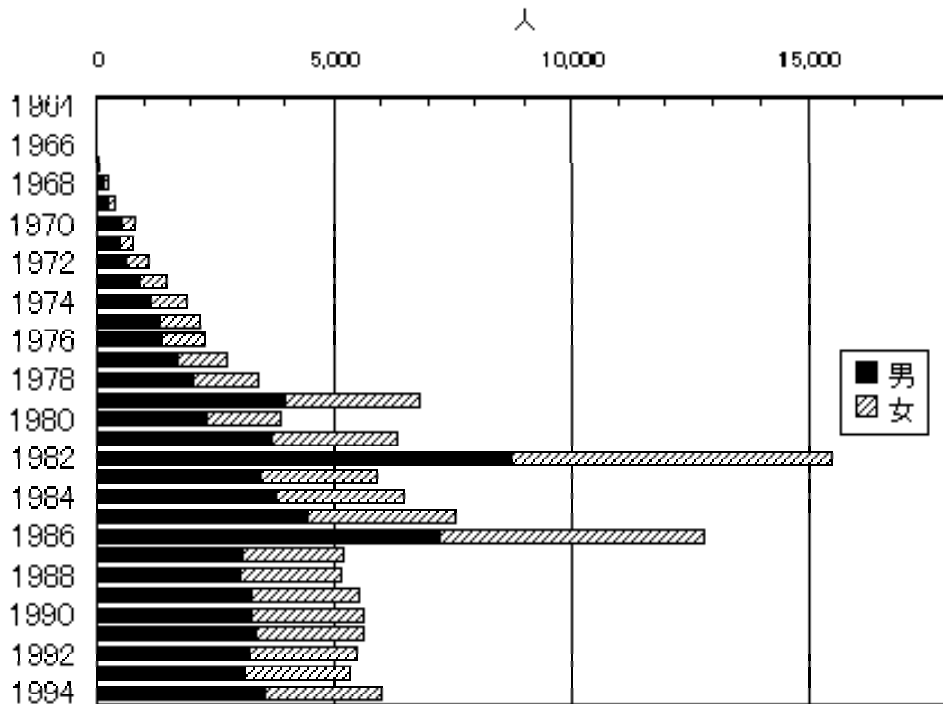
[表1] 都道府県別回収状況

	調査依頼施設数	回答施設	回収率	患者あり施設数	患者報告数
総数	2,640	1,730	65.5	1,063	11,458
1 北海道	157	105	66.9	56	516
2 青森	42	28	66.7	17	150
3 岩手	39	22	56.4	11	65
4 宮城	46	33	71.7	20	239
5 秋田	31	23	74.2	11	98
6 山形	24	16	66.7	12	82
7 福島	64	41	64.1	21	135
8 茨城	66	40	60.6	20	252
9 栃木	37	28	75.7	19	246
10 群馬	46	29	63.0	14	203
11 埼玉	115	63	54.8	33	450
12 千葉	97	59	60.8	40	656
13 東京	200	129	64.5	89	1208
14 神奈川	124	81	65.3	55	696
15 新潟	56	40	71.4	28	226
16 富山	29	19	65.5	14	125
17 石川	39	29	74.4	16	147
18 福井	22	17	77.3	10	85
19 山梨	22	13	59.1	9	78
20 長野	54	28	51.9	22	209
21 岐阜	46	32	69.6	21	136
22 静岡	56	44	78.6	37	345
23 愛知	119	76	63.9	50	621
24 三重	32	22	68.8	16	188
25 滋賀	26	20	76.9	13	92
26 京都	66	41	62.1	25	274
27 大阪	180	116	64.4	75	725
28 兵庫	107	68	63.6	45	573
29 奈良	28	21	75.0	17	146
30 和歌山	24	19	79.2	15	127
31 鳥取	15	10	66.7	8	50
32 島根	24	15	62.5	9	41
33 岡山	46	33	71.7	15	121
34 広島	61	46	75.4	32	299
35 山口	41	29	70.7	16	129
36 徳島	26	16	61.5	8	76
37 香川	25	16	64.0	13	121
38 愛媛	36	22	61.1	17	172
39 高知	31	21	67.7	9	65
40 福岡	102	71	69.6	36	520
41 佐賀	20	14	70.0	7	72
42 長崎	46	31	67.4	14	147
43 熊本	53	32	60.4	11	169
44 大分	25	17	68.0	9	111
45 宮崎	19	10	52.6	6	80
46 鹿児島	39	25	64.1	12	146
47 沖縄	37	20	54.1	10	46

2. 年次推移

今回の調査で報告された患者数は、1993年5,389人、1994年6,069人のあわせて11,458人であった。過去12回の調査で報告された患者を含めると1994年12月末までの患者は、合計128,306人になった。年次推移をみると図1に示すように、患者数は男女とも1970年頃から着実に増加する傾向がみられ、過去に3回流行があったが1986年以降8年間は、とくに流行はみられていない。今回の調査対象となった1993年はやや患者数が減少したが、1994年は約10%増加し、6,000人を越えている。

[図1] 年次別、性別報告数



3. 患者報告数

性別患者数は、11,458人中、男6,729人、女4,729人で、2年間平均の罹患率は両年の推計値による0-4歳人口10万対年間95.1（男108.8、女80.7）であった。患者数の性比は1.43、罹患率の性比は1.35で男が多かった。（表2）

年齢別にみると3歳未満の者が全体の70.7%（男71.1%、女70.0%）を占めていた。（表3）

2年間の都道府県別患者報告数の最も多いのは、東京1,136人、次いで大阪738人、神奈川717人、千葉645人の順であった。（表4）

2年間の月別、性別患者報告数を図2に示す。男女とも冬（12月、1月）および夏（6月、7月）にやや増加し、秋（9月、10月）は少なめであった。またすべての月で男が多かった。

[表2] 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0～4歳10万対年間罹患率			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(2.0)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.9)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(2.0)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.1)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	12(1.5)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.4)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	35(2.3)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.0)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.7)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	16(0.7)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	18(0.6)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.4)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	38(0.6)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.2)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.3)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	49(0.3)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	17(0.3)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	19(0.3)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.1)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.1)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	10(0.2)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.1)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.1)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.2)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.1)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.2)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
計	128,306	74,544	53,760	—	—	—	405(0.3)

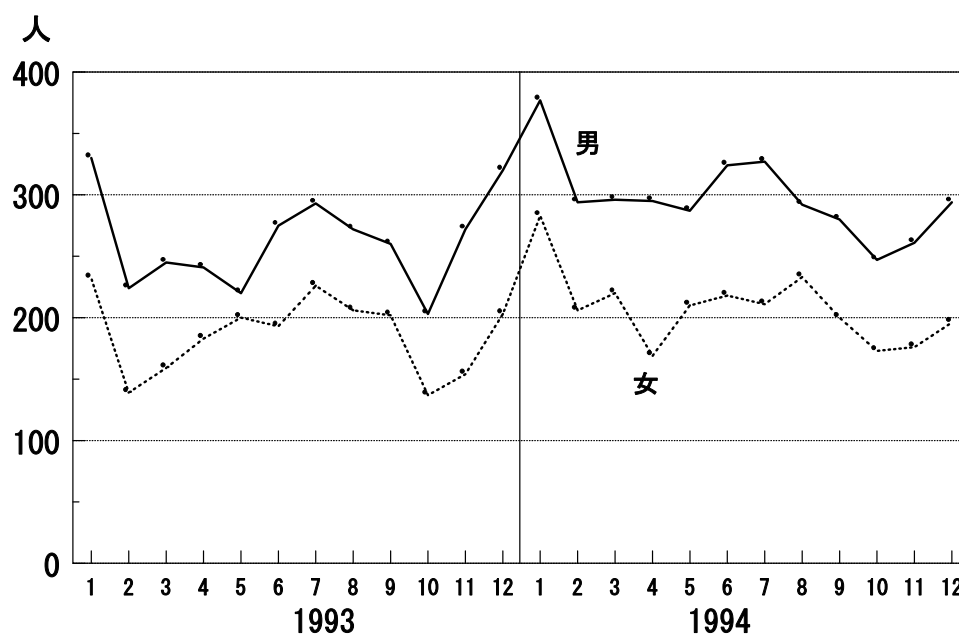
* 罹患率は人口動態統計の分母に用いる日本人人口（5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの）を用いて計算した。

* 今回、過去のデータの再点検を行い訂正したために、前回までの報告数と一部一致しない。

[表3] 年次別、性別、年齢別患者数

		総数	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	不明
総数	計	11,458	1,400	2,012	2,846	1,839	1,186	893	620	292	143	85	49	69	24
	男	6,729	813	1,237	1,688	1,047	694	524	351	163	81	46	31	37	17
	女	4,729	587	775	1,158	792	492	369	269	129	62	39	18	32	7
1993	計	5,389	708	960	1,317	917	525	419	258	120	61	38	22	33	11
	男	3,155	403	568	786	527	308	261	141	67	31	22	16	17	8
	女	2,234	305	392	531	390	217	158	117	53	30	16	6	16	3
1994	計	6,069	692	1,052	1,529	922	661	474	362	172	82	47	27	36	13
	男	3,574	410	669	902	520	386	263	210	96	50	24	15	20	9
	女	2,495	282	383	627	402	275	211	152	76	32	23	12	16	4

[図2] 月別、性別患者数



[表4] 都道府県別、年次別、性別患者数

	患 者 数								
	総 数			1993年			1994年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総 数	11,458	6,729	4,729	5,389	3,155	2,234	6,069	3,574	2,495
1 北海道	516	297	219	246	129	117	270	168	102
2 青森	143	92	51	69	41	28	74	51	23
3 岩手	68	45	23	24	17	7	44	28	16
4 宮城	242	129	113	111	52	59	131	77	54
5 秋田	97	56	41	47	30	17	50	26	24
6 山形	81	44	37	35	22	13	46	22	24
7 福島	133	84	49	52	32	20	81	52	29
8 茨城	269	144	125	128	69	59	141	75	66
9 栃木	234	136	98	117	69	48	117	67	50
10 群馬	188	106	82	81	49	32	107	57	50
11 埼玉	537	308	229	228	133	95	309	175	134
12 千葉	645	381	264	284	163	121	361	218	143
13 東京都	1,136	705	431	537	340	197	599	365	234
14 神奈川県	717	420	297	345	196	149	372	224	148
15 新潟	228	130	98	94	51	43	134	79	55
16 富山	125	71	54	66	39	27	59	32	27
17 石川	144	96	48	76	54	22	68	42	26
18 福井	88	54	34	33	18	15	55	36	19
19 山梨	80	51	29	23	15	8	57	36	21
20 長野	206	115	91	87	52	35	119	63	56
21 岐阜	134	79	55	51	30	21	83	49	34
22 静岡	348	216	132	157	94	63	191	122	69
23 愛知	615	337	278	321	170	151	294	167	127
24 三重	198	109	89	98	54	44	100	55	45
25 滋賀	95	61	34	37	26	11	58	35	23
26 京都	271	172	99	117	70	47	154	102	52
27 大阪	738	435	303	354	212	142	384	223	161
28 兵庫	567	302	265	286	148	138	281	154	127
29 奈良	137	86	51	66	39	27	71	47	24
30 和歌山	124	65	59	45	28	17	79	37	42
31 鳥取	44	25	19	25	16	9	19	9	10
32 島根	44	25	19	18	13	5	26	12	14
33 岡山	123	71	52	62	33	29	61	38	23
34 広島	298	167	131	154	90	64	144	77	67
35 山口	125	74	51	61	36	25	64	38	26
36 徳島	75	43	32	45	24	21	30	19	11
37 香川	112	68	44	53	37	16	59	31	28
38 愛媛	177	100	77	84	54	30	93	46	47
39 高知	61	34	27	34	19	15	27	15	12
40 福岡	502	310	192	255	152	103	247	158	89
41 佐賀	81	50	31	28	18	10	53	32	21
42 長崎	147	84	63	77	47	30	70	37	33
43 熊本	170	106	64	81	50	31	89	56	33
44 大分	108	63	45	50	26	24	58	37	21
45 宮崎	78	52	26	42	28	14	36	24	12
46 鹿児島	146	90	56	72	44	28	74	46	28
47 沖縄	47	29	18	24	19	5	23	10	13
48 不明	16	12	4	9	7	2	7	5	2

[表5] 都道府県別、年次別罹患率

年次 県名	1990	1991	1992	1993	1994
全 国	88.1	90.1	89.9	89.1	101.1
1 北海道	90.8	89.7	95.5	84.2	92.5
2 青森	88.8	111.3	117.5	86.3	92.5
3 岩手	55.3	52.6	75.0	31.6	57.9
4 宮城	134.9	101.6	96.0	88.1	104.0
5 秋田	55.7	80.3	75.4	77.0	82.0
6 山形	102.9	107.4	94.1	51.5	67.6
7 福島	37.4	27.6	47.2	42.3	65.9
8 茨城	103.8	66.9	73.9	81.5	89.8
9 栃木	79.8	114.7	90.8	107.3	107.3
10 群馬	99.0	101.9	110.6	77.9	102.9
11 埼玉	89.1	69.2	64.8	67.5	91.4
12 千葉	85.4	112.2	91.7	98.6	125.3
13 東京	100.8	102.7	106.5	102.9	114.8
14 神奈川	90.7	92.4	83.0	84.8	91.4
15 新潟	97.0	65.2	65.2	71.2	101.5
16 富山	94.4	98.1	90.7	122.2	109.3
17 石川	123.0	109.8	109.8	124.6	111.5
18 福井	102.2	102.2	89.1	71.7	119.6
19 山梨	91.3	65.2	80.4	50.0	123.9
20 長野	83.2	88.5	97.3	77.0	105.3
21 岐阜	89.1	90.0	69.1	46.4	75.5
22 静岡	88.1	110.0	95.5	78.1	95.0
23 愛知	72.9	74.8	74.5	87.0	79.7
24 三重	96.9	107.3	94.8	102.1	104.2
25 滋賀	138.4	54.8	60.3	50.7	79.5
26 京都	94.6	76.7	93.8	90.7	119.4
27 大阪	79.4	74.9	74.9	79.2	85.9
28 兵庫	101.0	103.1	101.4	100.0	98.3
29 奈良	93.1	108.3	118.1	91.7	98.6
30 和歌山	116.1	121.4	116.1	80.4	141.1
31 鳥取	73.5	50.0	73.5	73.5	55.9
32 島根	90.2	65.9	70.7	43.9	63.4
33 岡山	51.0	76.5	69.6	60.8	59.8
34 広島	77.0	83.6	87.5	101.3	94.7
35 山口	64.9	87.0	100.0	79.2	83.1
36 徳島	109.3	102.3	62.8	104.7	69.8
37 香川	121.2	107.7	103.8	101.9	113.5
38 愛媛	119.0	84.8	91.1	106.3	117.7
39 高知	85.0	77.5	75.0	85.0	67.5
40 福岡	94.6	103.8	99.6	98.1	95.0
41 佐賀	74.5	88.2	49.0	54.9	103.9
42 長崎	50.5	86.8	69.2	84.6	76.9
43 熊本	70.9	97.1	117.5	78.6	86.4
44 大分	81.3	84.4	70.3	78.1	90.6
45 宮崎	82.1	68.7	47.8	62.7	53.7
46 鹿児島	69.6	69.6	53.9	70.6	72.5
47 沖縄	25.0	16.3	27.2	26.1	25.0

*都道府県別罹患率は各年次とも1990年の国勢調査人口を用いて計算した。
 全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した。
 現住所不明の者は計算から除外した。

4. 罹患率

1993年、94年平均の性別、年齢別罹患率は、男女とも0歳半ばにピークを示す一峰性のカーブを示していた。罹患率の性比は、月齢が9～11か月の者で最も大きく、1.58であった。(図3)

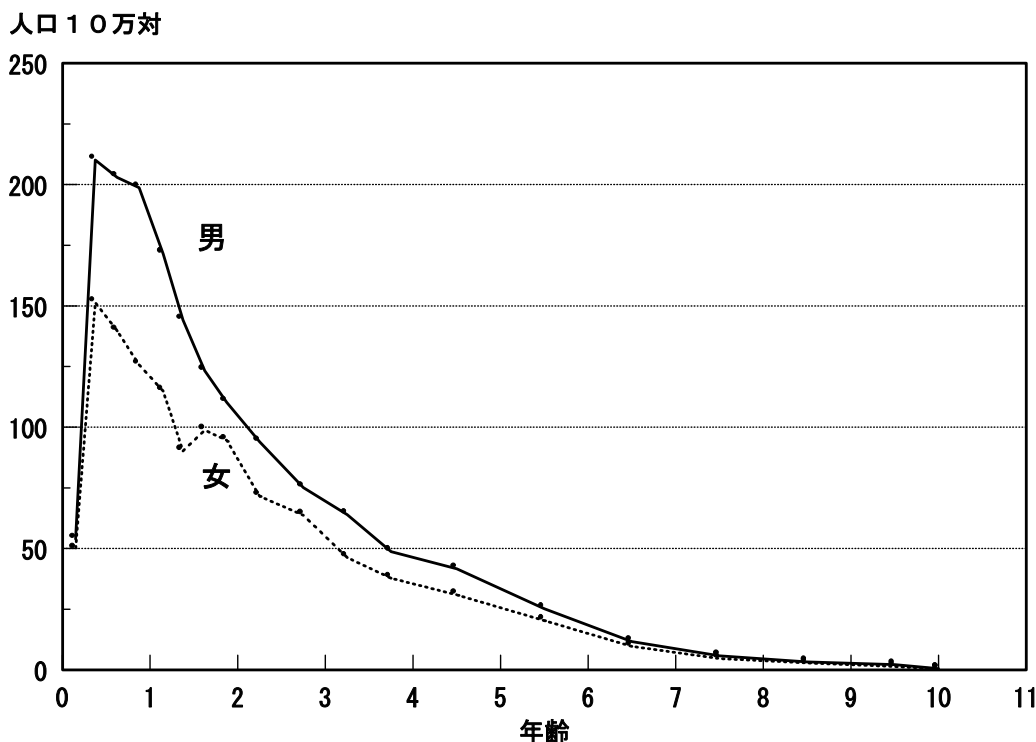
過去5年間の都道府県別罹患率を0～4歳の人口10万に対する割合で計算したものが表5である(1990年国勢調査人口を使用)。1990年～93年は88～90の範囲にありコンスタントの値を維持していたが、1994年には約10%増加し、100を越した。1993年、94年の2年間の平均値について、都道府県別罹患率の地図を図4に示した。0～4歳人口10万対罹患率の実測値の地域差(左)をみると、関東から北陸にかけての広い地域、近畿、四国に罹患率の高いところがみられた。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を100%に補正した上で地域差をみても(右)、ほとんど実測値と同じような地域差であったが、関東を中心とした地域と近畿・四国を中心とした地域に罹患率の高いところが集積していた。

5. 診断

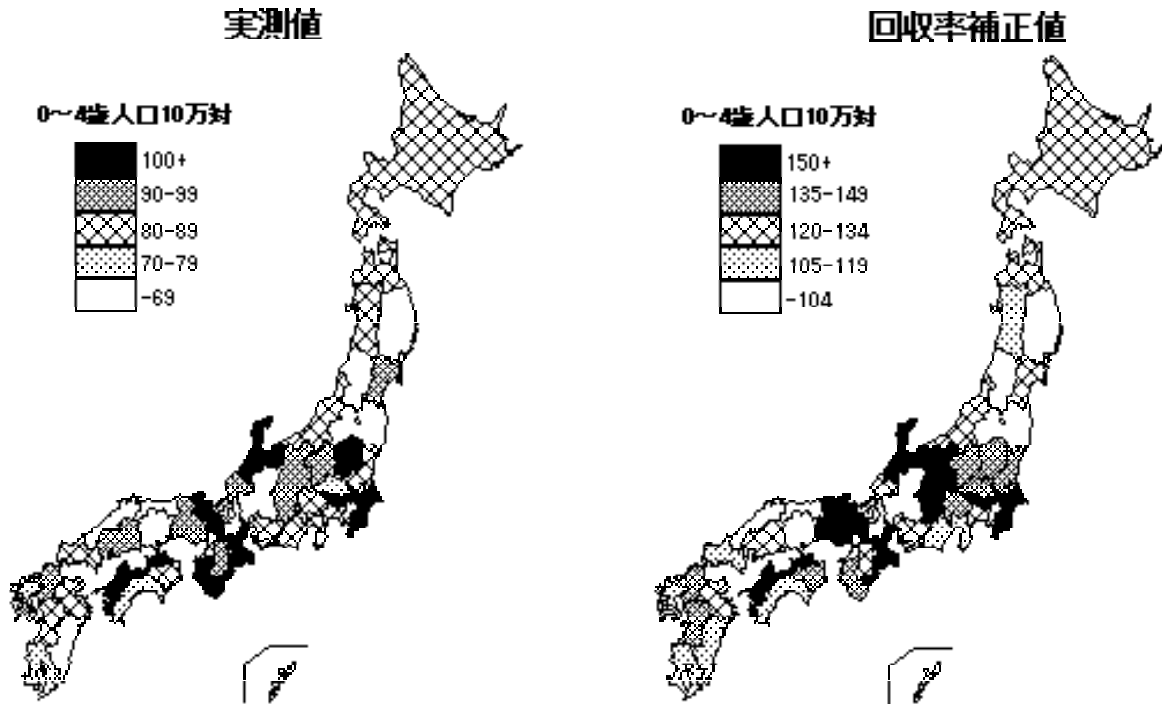
診断基準への一致度をみると、定型例84.3%(男84.8%、女83.7%)、不定型例4.0%(男4.1%、女3.9%)、容疑例11.6%(男11.1%、女12.4%)であった。不定型例および、容疑例について、性年齢別にみたものが図5である。両者とも1歳までの若年児と、5歳以上の高年児に多くみられ、U字型のカーブを示し、男女とも同じような傾向を示していた。

なお、定型例は「川崎病診断の手引き」に示された6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴う者、不定型例は4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤(いわゆる拡大を含む)が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また容疑例は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断した者をいう。

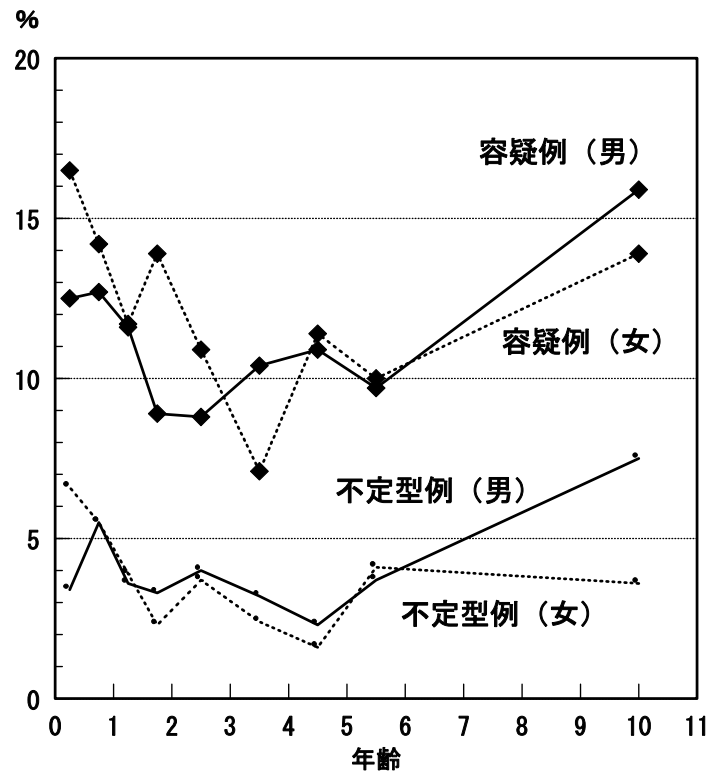
[図3] 性別、年齢別罹患率(199年, 94年平均)



[図4] 都道府県別罹患率



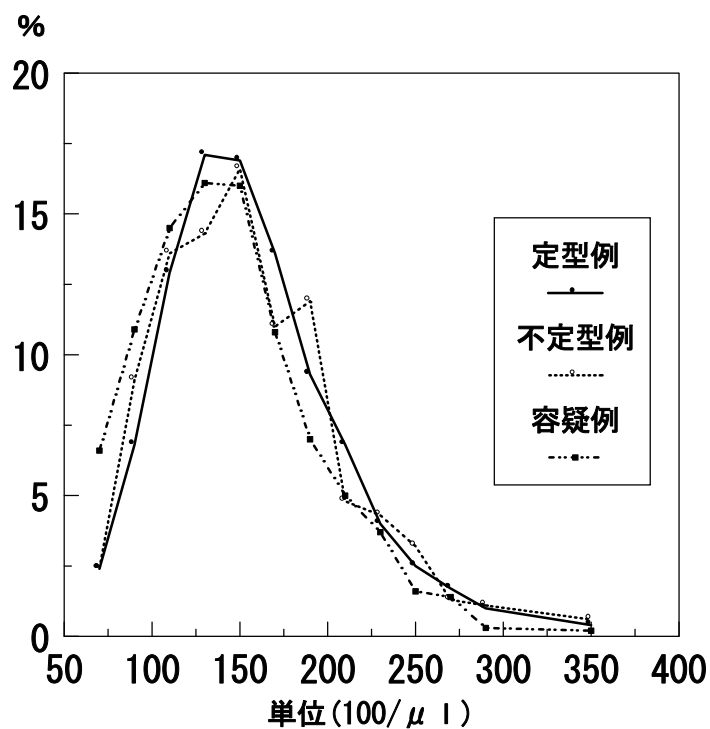
[図5] 性別、年齢別、不定型例、容疑例の割合



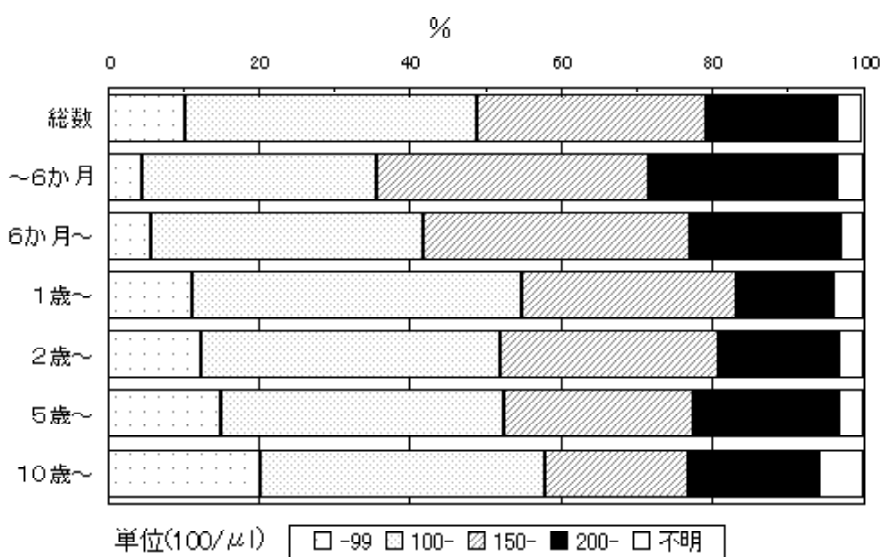
6. 検査項目

今回、新たに調査項目に追加した白血球数とCRP値についてみる。診断別にみた白血球数の分布では、いずれも12000-16000 ($/\mu l$)の値で最も高くなっていた。年齢別には、若年齢では15000以上の高い値の者が多く、年齢が高くなるにつれて白血球数は低い値の者が多かった。(図6, 図7)

[図6] 診断別白血球数の分布

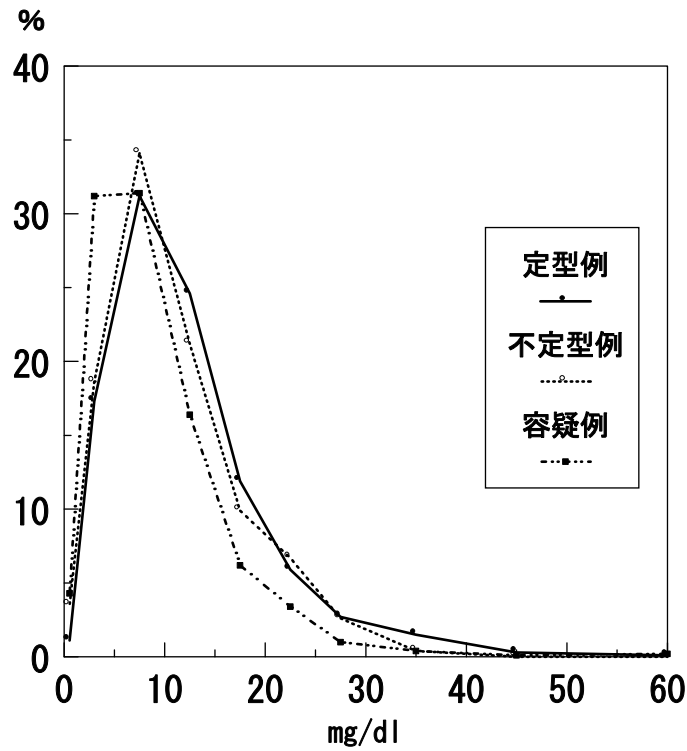


[図7] 年齢別白血球数の分布

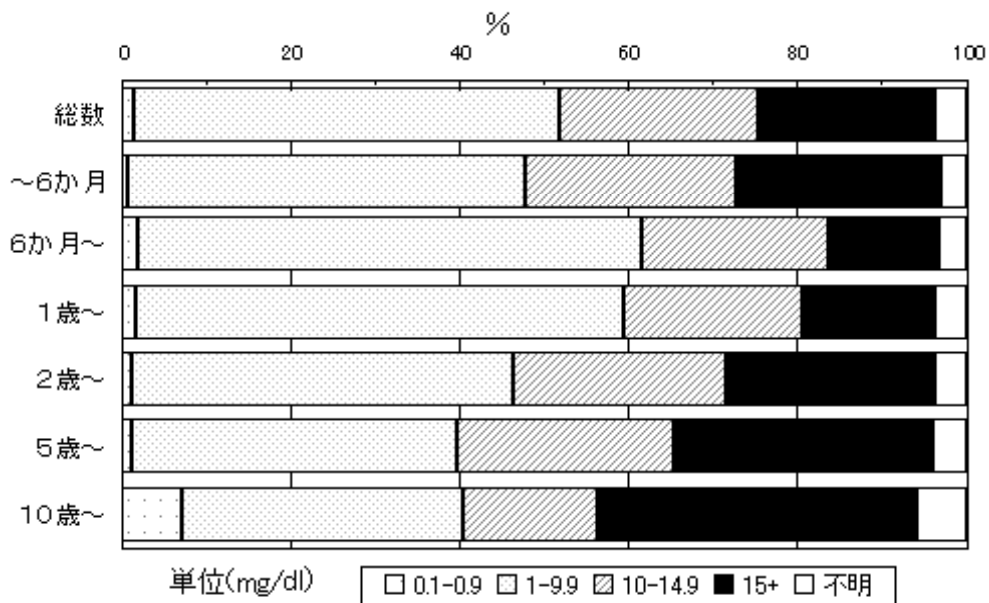


診断別にみたCRP値の分布では、いずれも5.0-9.9 (mg/dl) の値で最も高く、容疑例は定型例、不定型例に比べて低値にずれていた。年齢別には6か月以後年齢が高くなるにつれてCRPは高い値の者が増加していた。(図8, 図9)

[図8] 診断別CRP値の分布



[図9] 年齢別CRP値の分布



7. 同胞例

同胞例ありの割合は報告患者中1.2%（男1.1%、女1.2%）であった。同胞例ありの者の割合を性年齢別にみると、男は5歳以上の年齢で上昇していた。しかし、女は5歳の患者では男より高くなっていたがそれ以降の年齢では減少していた。（図10）

8. 再発例

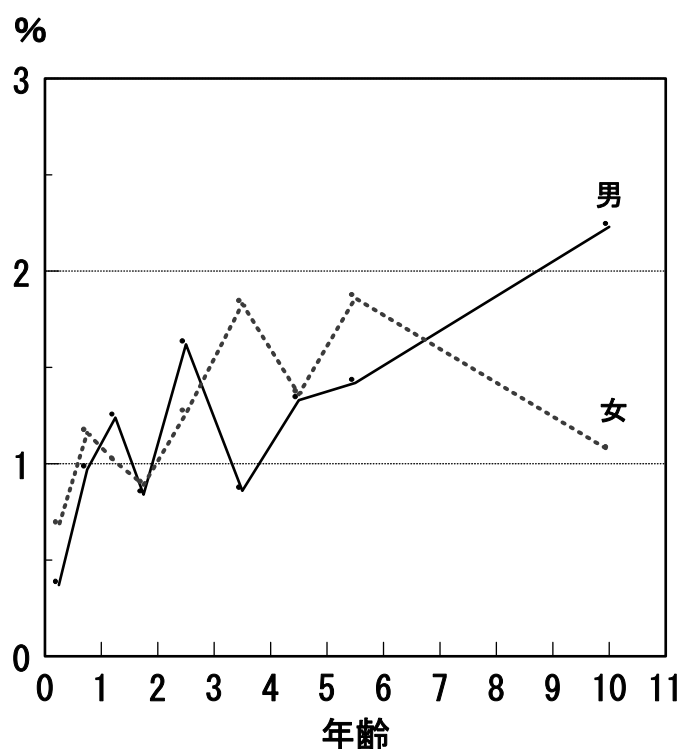
再発例の割合は報告患者中2.9%（男2.9%、女2.9%）であった。再発例の割合を性、年齢別にみてみると、男女とも5歳までは年齢とともに上昇していた。特に5歳以降の女は急上昇していた。（図11）年齢別再発例の割合を再発回数別にみると、再発1回目の者は報告患者中2.5%、再発2回目以上の者は0.2%であった。再発1回目の者の割合は年齢とともに上昇していた。2回目以上の者の割合は5歳まで増加していたが、それ以降は増加していなかった。（図12）

再発ありについて、初発から再発までの期間をみると、男は3～5か月に集中する傾向がみられ、女の2倍以上であった。一方女は初発後0～3か月から9～11か月にかけて男より広い分布を示していた。（図13）

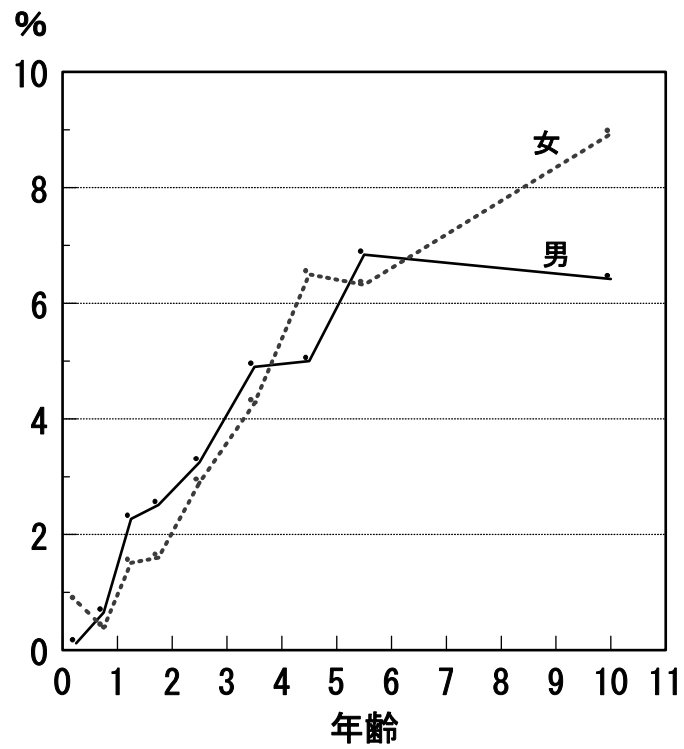
9. 死亡例

死亡例は2年間に13例（男11例、女2例）報告され0.10%を占めていた。性別にみると、男が高率であり、年齢別にみると、1歳未満が0.21%で1歳以上に比べて1.5倍の高率を示した。（表6）

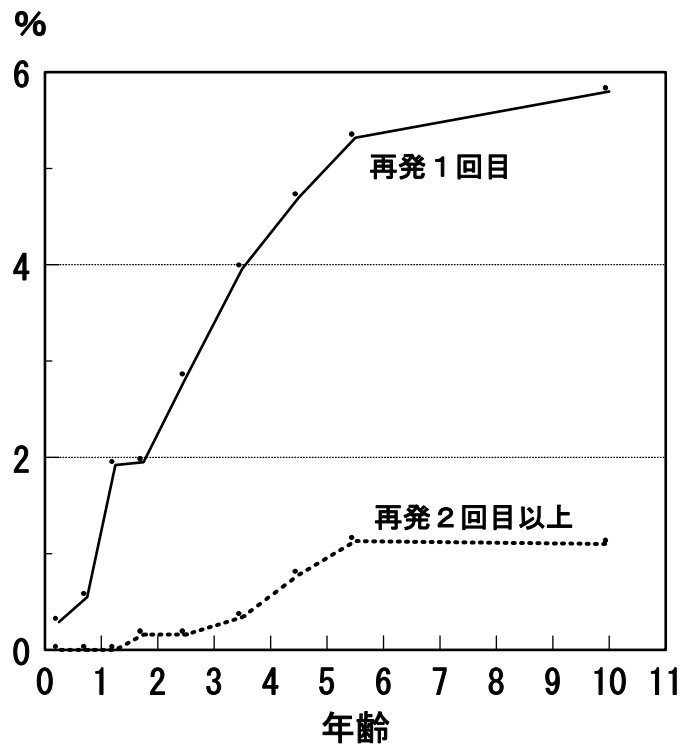
[図10] 性別、年齢別同胞例ありの割合



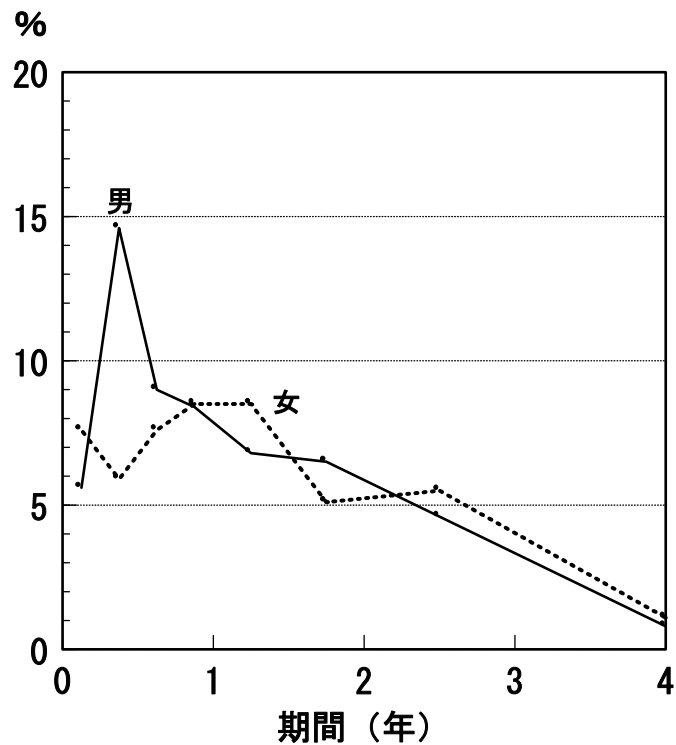
[図 1 1] 性別、年齢別再発例の割合



[図 1 2] 年齢別、再発回数別再発例の割合



[図 1 3] 初発から今回の再発までの期間の分布



*再発あり 3 2 9 人を集計 (期間不明 3 3 人を除く)

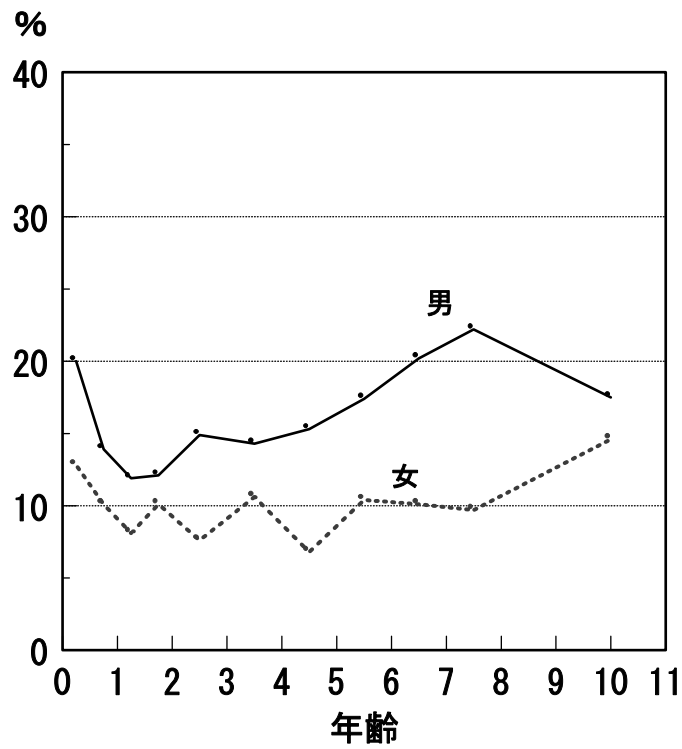
[表 6] 性別、年齢別死亡例の割合

		総数	死亡例	%
総数		11,458	13	0.10
性別	男	6,729	11	0.16
	女	4,729	2	0.04
年齢別	～11か月	3,412	7	0.21
	12～23か月	2,846	2	0.07
	2歳以上	5,716	4	0.07
	不明	24	—	—

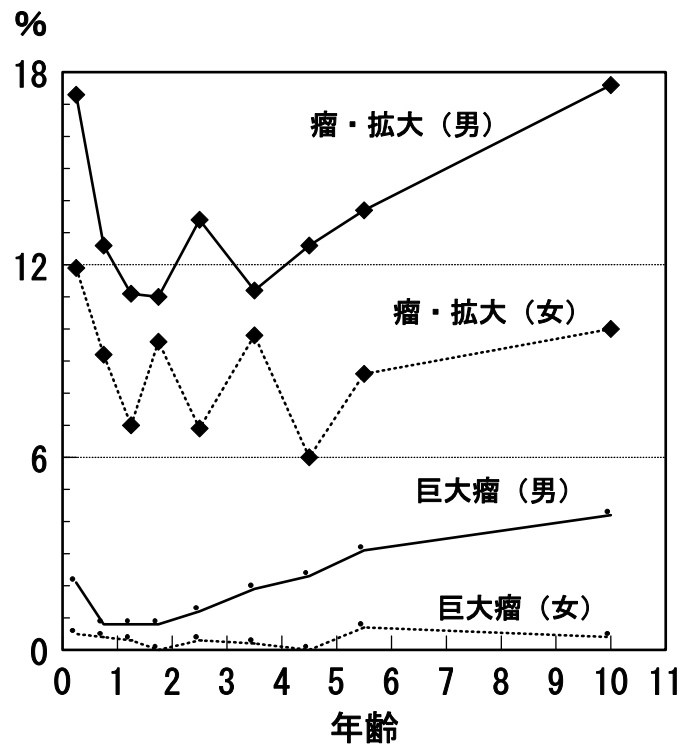
10. 心後遺症例

心後遺症例の割合は報告患者中 12.8% (男 15.0%、女 9.6%) であり、男は女の約 1.5 倍の高率を示していた。心後遺症ありの者の割合を性年齢別にみると男は 6 か月未満の若年児と 7 歳以上の高年齢児、女は 6 か月未満の若年児と 9 歳以上の高年齢児が高く、男女ともゆるやかな U 型のカーブを示し、各年齢とも女は男に比べて低かった。(図 1 4) 性別、年齢別巨大瘤、瘤・拡大の出現率をみると、いずれも男および生後 6 か月未満の患者では、他の年齢よりも高い値を示し、巨大瘤の女以外は、5 歳以上で再び増加傾向を示していた。(図 1 5)

[図14] 性別、年齢別心後遺症の出現率



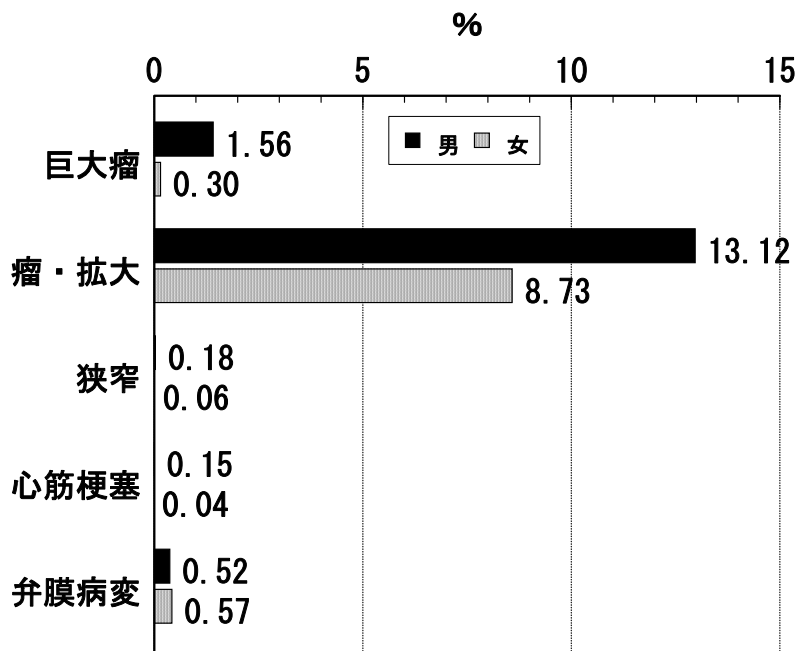
[図15] 性別、年齢別巨大瘤、瘤・拡大の出現率



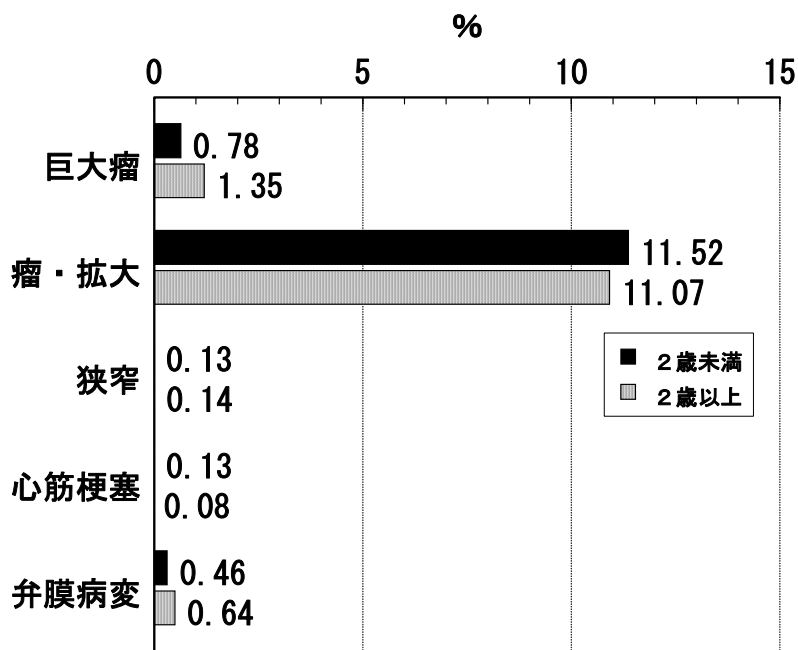
心後遺症の種類別の割合は報告患者中、冠動脈の瘤・拡大11.3%、巨大瘤1.0%、弁膜病変0.5%、狭窄0.1%、心筋梗塞0.1%であった。それを男女別にみたものが図16である。弁膜病変以外は男に高い。特に巨大瘤では、男は女の5倍以上の出現率であった。

心後遺症の種類別の出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみたものが図17である。いずれの病変も年齢による差はあまりみられなかったが、巨大瘤の出現率は2歳以上でやや高率にみられ、瘤・拡大の出現率は2歳未満の若年児にやや高率にみられた。

[図16] 性別、種類別心後遺症の出現率

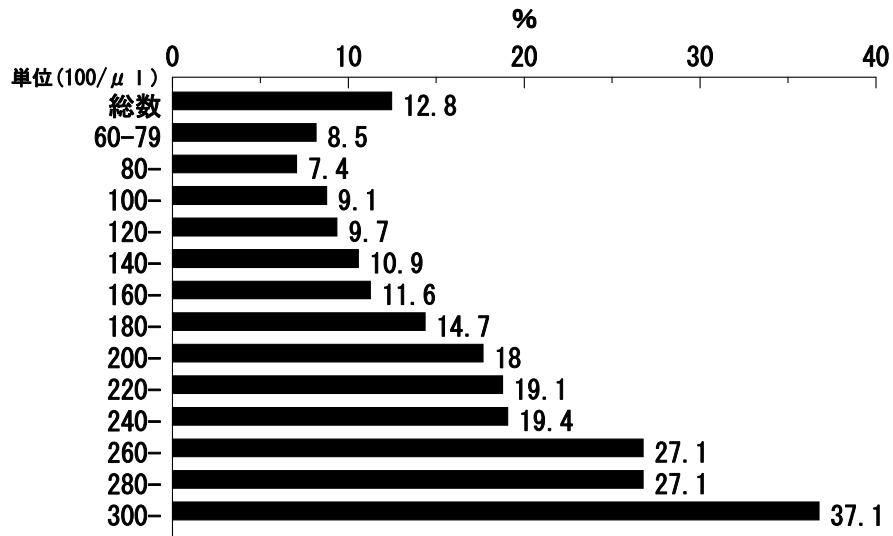


[図17] 年齢別、種類別心後遺症の出現率

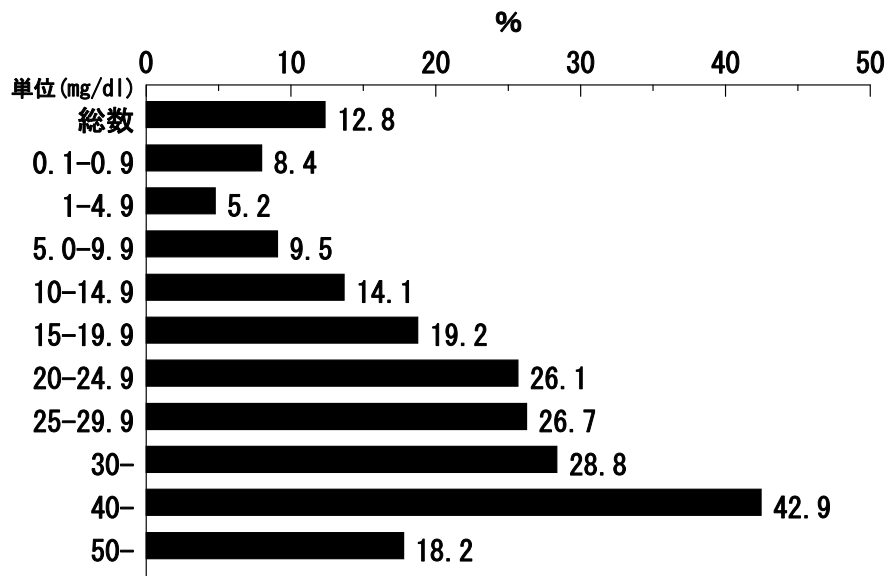


後遺症の出現率を白血球数の区別にみたものが図18である。白血球数が高い値ほど後遺症も高率にみられた。後遺症の出現率をCRP値の区別にみたものが図19である。白血球数と同様にCRP値が高いほど後遺症も高率にみられた。

〔図18〕白血球数区分別心後遺症の出現率



〔図19〕CRP値区分別心後遺症の出現率

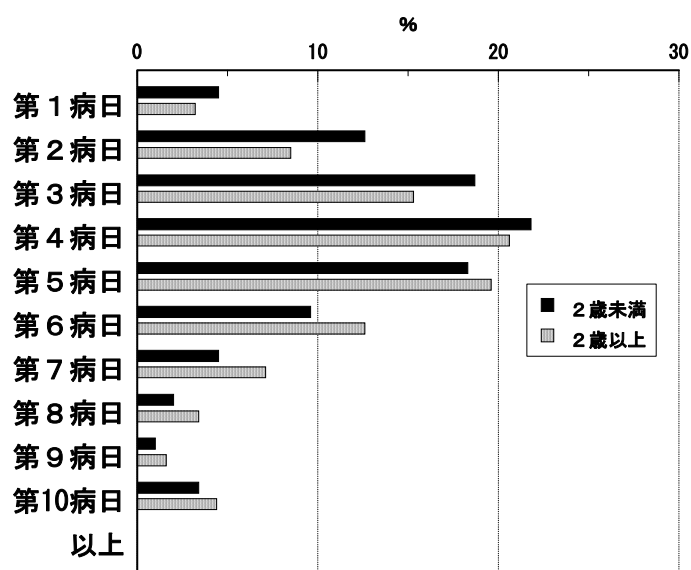


1.1. 初診時分布

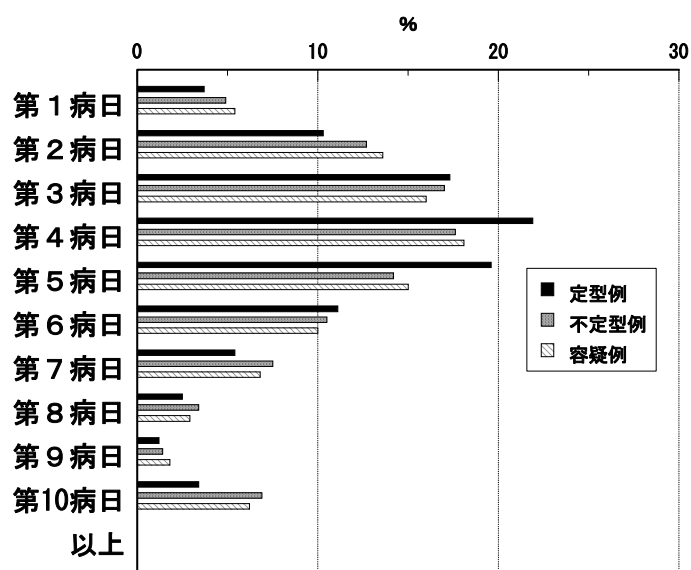
患者の初診日は第4病日が最も多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみたものが図20である。第4病日までに受診した者は2歳未満の者では58.8%を占めていたが、2歳以上の者では48.8%であり、2歳未満の若年児が早く受診していた。

患者の初診日について、診断別にみたものが図21である。ピークは第4病日に集中していた。ついで定型例は第5病日、不定型例、容疑例は第3病日の順であり受診病日がやや早い傾向がみられる一方、10日以上たってから受診する者も多くみられた。

[図 2 0] 年齢別、初診時病日の分布



[図 2 1] 診断別、初診時病日の分布

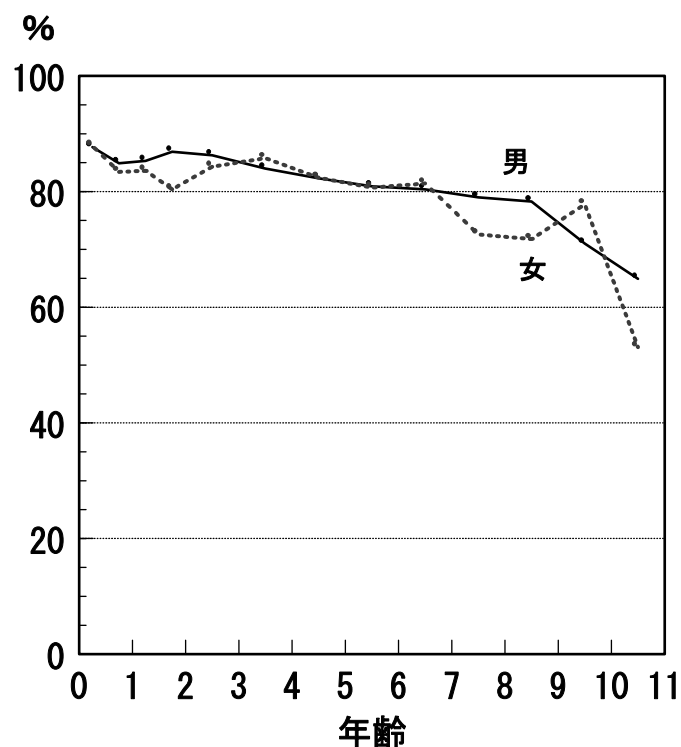


12. 治療

ガンマグロブリンの治療を受けた者は84.1% (男84.7%、女83.3%) を占めていた。性別、年齢別ガンマグロブリン使用ありの割合をみたものが図22である。男女とも6歳までは約80%を占め、その後下降していた。

ガンマグロブリンの1日あたりの投与量は、301-400mg/kgの者が最も多く38.9%、次いで101-200mg/kgの者29.9%、201-300mg/kgの者21.1%となっていた。投与期間は5日が最も多く、64.9%、次いで3日15.4%、4日7.3%であった。(表7)

[図 2 2] 性別、年齢別ガンマグロブリン使用ありの割合



[表 7] ガンマグロブリン 1 日投与量 (mg/kg) 別、投与期間の分布

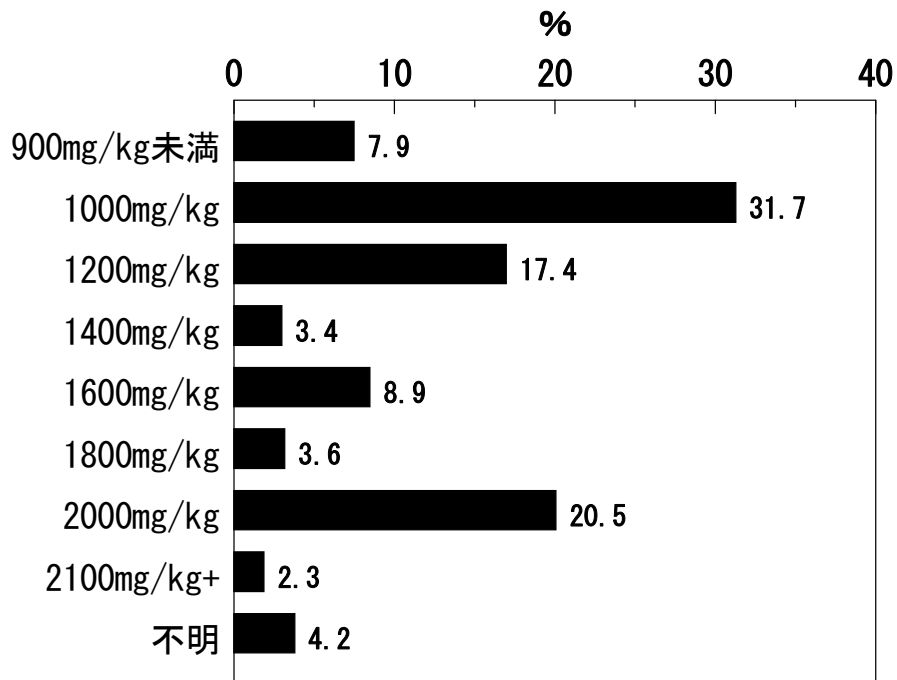
	総数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日-	不明
総数	9,639	393	252	1,488	699	6,258	59	52	24	9	22	384
-100mg/kg	78	34	7	10	1	20	2	0	0	0	0	4
-200mg/kg	2,880	42	31	149	113	2,420	16	14	4	1	6	84
-300mg/kg	2,034	16	28	239	266	1,367	18	11	5	3	6	75
-400mg/kg	3,749	25	59	969	265	2,266	18	25	15	4	10	93
-500mg/kg	338	5	33	91	46	150	3	2	0	0	0	8
-600mg/kg	47	4	10	12	5	15	1	0	0	0	0	0
-700mg/kg	6	0	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0
-800mg/kg	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-900mg/kg	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-1000mg/kg	272	170	81	11	3	0	0	0	0	0	0	7
1000mg/kg+	98	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
不明	134	0	0	4	0	20	0	0	0	0	0	110

*ガンマグロブリン使用例 9, 639 人を集計

ガンマグロブリンの 1 日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1000mg/kg が最も多く 31.7%、次いで 2000mg/kg が 20.5%、1200mg/kg が 17.4% であった。(図 2 3)

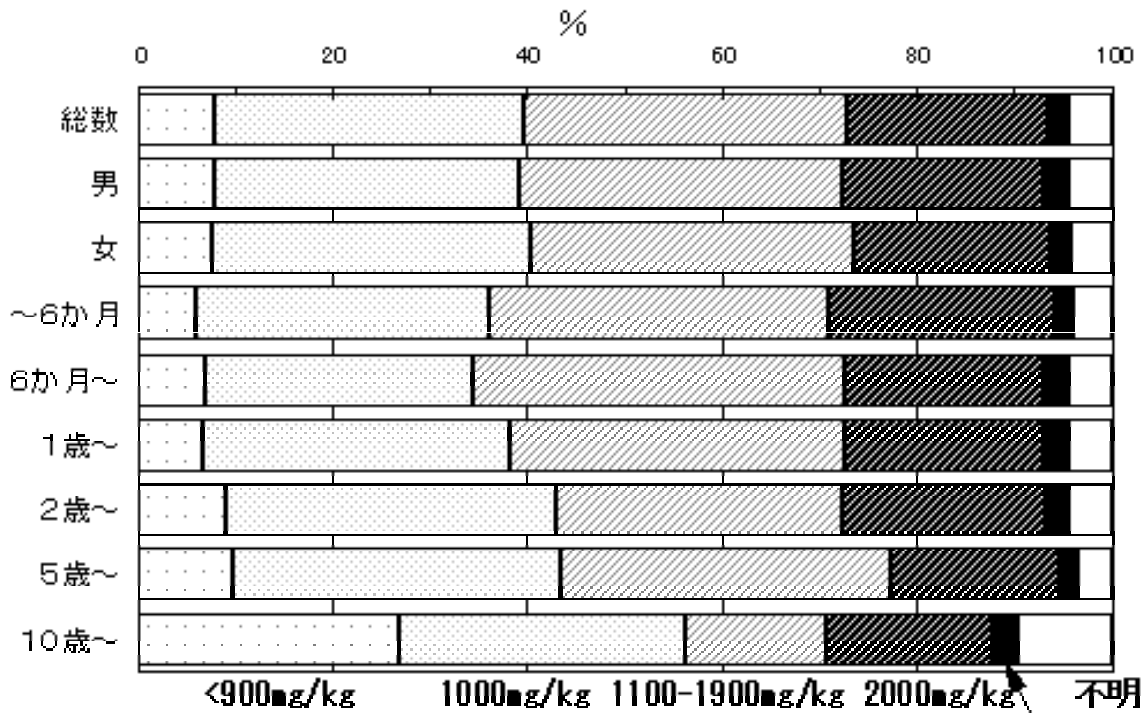
性別にはほとんど差がなく、年齢別にみると、高年齢児、特に 10 歳以上の使用総量が少なかった。(図 2 4)

[図23] ガンマグログリン使用総量の分布



*ガンマグログリン使用例9639人を集計
各区分 ± 100 mg/kgを含む

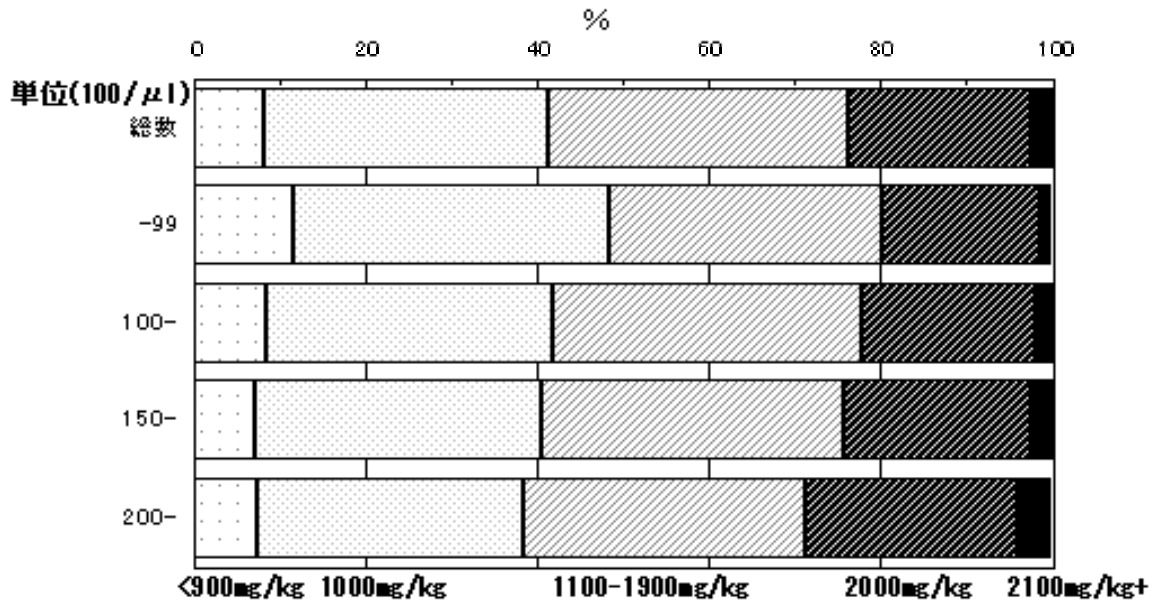
[図24] 性別、年齢別ガンマグログリン使用総量の分布



*ガンマグログリン使用例9639人を集計
1000mg/kg, 2000mg/kgの区分には ± 100 mg/kgを含む

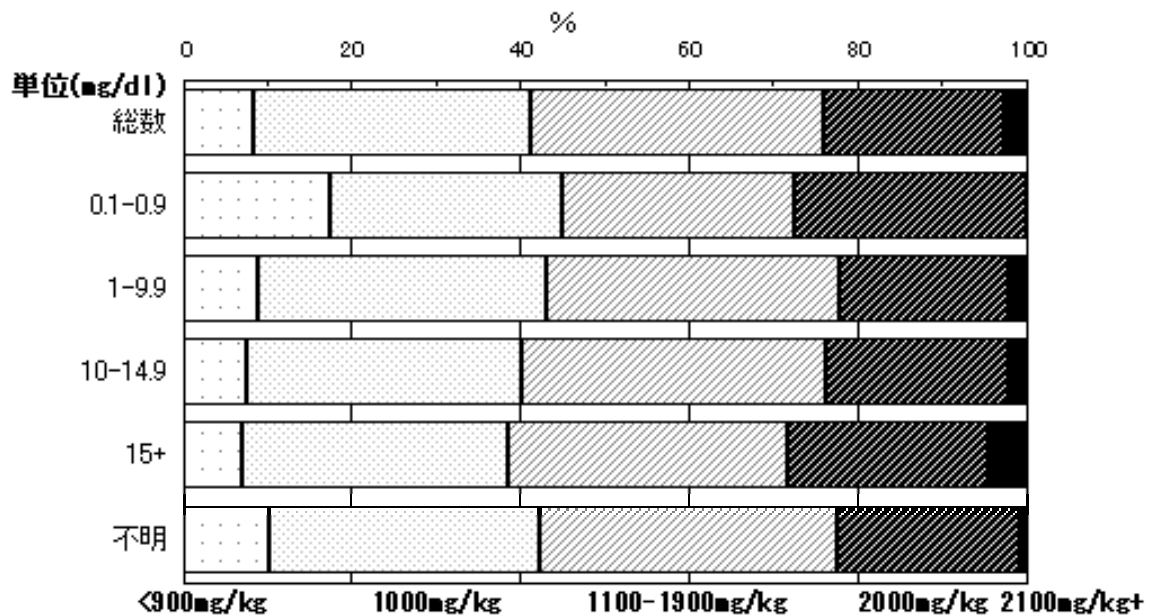
白血球数区別にガンマグロブリン使用総量の分布をみると数値の高い者ほど使用総量が多かった。(図25)同様にCRP値区別にガンマグロブリン使用総量の分布をみると数値の高い者ほど使用総量がやや多くなっていた。(図26)

[図25] 白血球数区別、ガンマグロブリン使用総量の分布



*ガンマグロブリン使用例9639人を集計(総量不明408人を除く)
1000mg/kg, 2000mg/kgの区分には±100mg/kgを含む

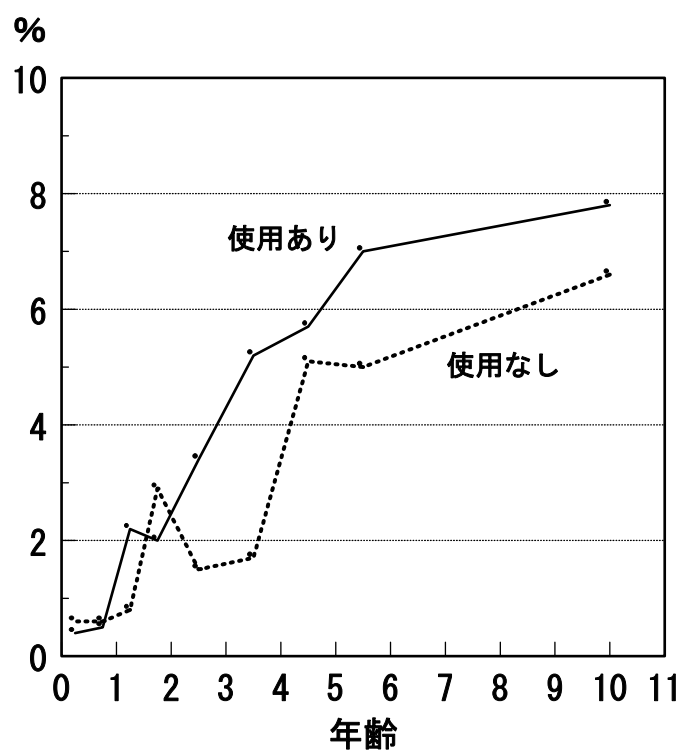
[図26] CRP値区別、ガンマグロブリン使用総量の分布



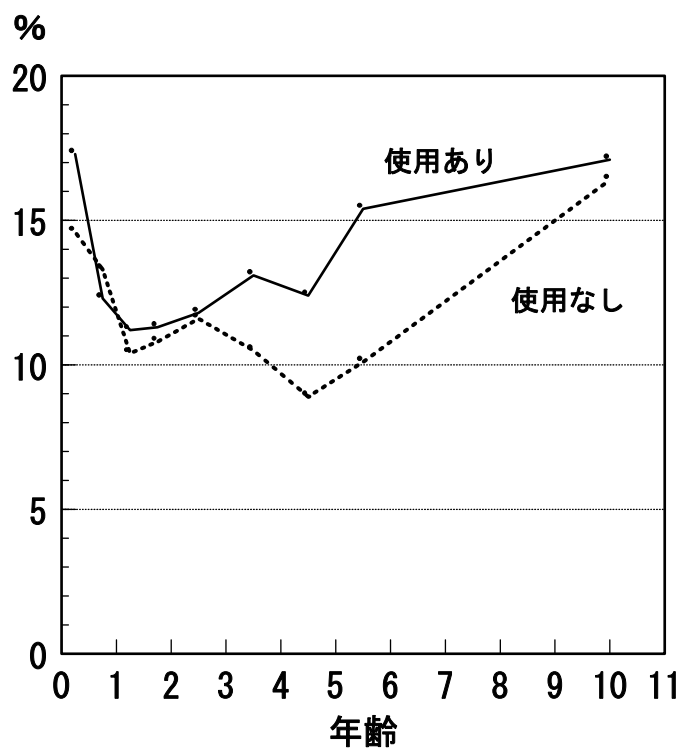
*ガンマグロブリン使用例9639人を集計(総量不明408人を除く)
1000mg/kg, 2000mg/kgの区分には±100mg/kgを含む

ガンマグロブリンの使用の有無別、年齢別の再発例の割合をみたものが図27である。使用ありの方が再発例の割合がやや高いが、両方とも同じような年齢傾向を示していた。ガンマグロブリンの使用の有無別、年齢別の心後遺症例の割合をみたものが図28である。使用ありは使用なしに比べて、6か月未満および3歳以上でやや高率の傾向を示していた。

[図27] ガンマグロブリン使用の有無別、年齢別再発例の割合



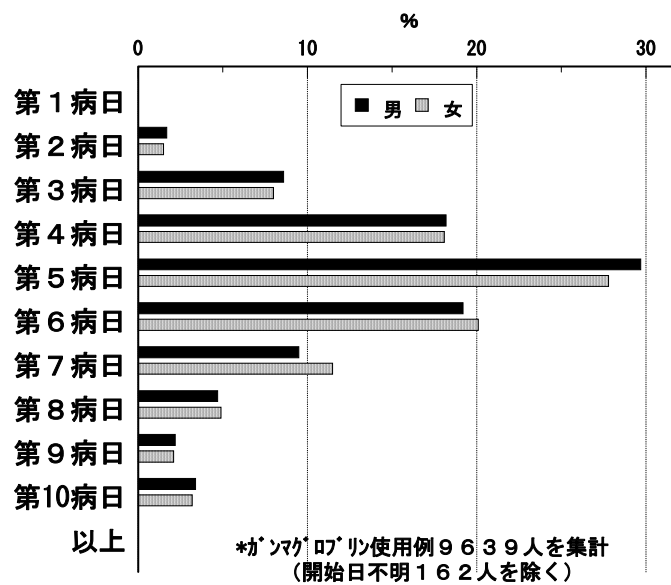
[図28] ガンマグロブリン使用の有無別、年齢別心後遺症の出現率



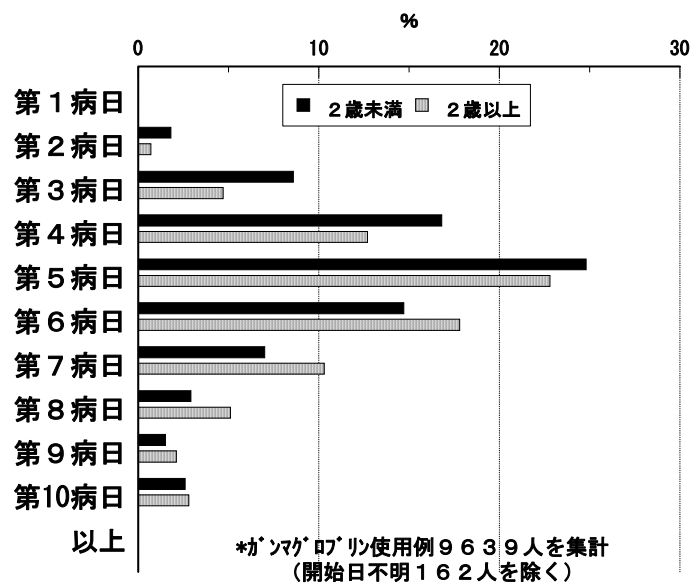
ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く28.7%、次いで第6病日19.5%、第4病日18.2%となっていた。ガンマグロブリンの投与開始日を性別にみると、男がやや早く投与する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者は男が59.6%、女が56.7%であった。(図29) ガンマグロブリンの投与開始日を年齢別にみると、2歳未満が早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始した者の割合は2歳未満では53.4%、2歳以上では42.2%と10%以上の開きがあった。(図30)

ガンマグロブリンの投与開始日を診断別にみると、定型例が早く投与を開始していた。不定型例、容疑例は10日以上たってから投与開始する者も多くみられ、これは初診時病日の分布と類似している。(図31)

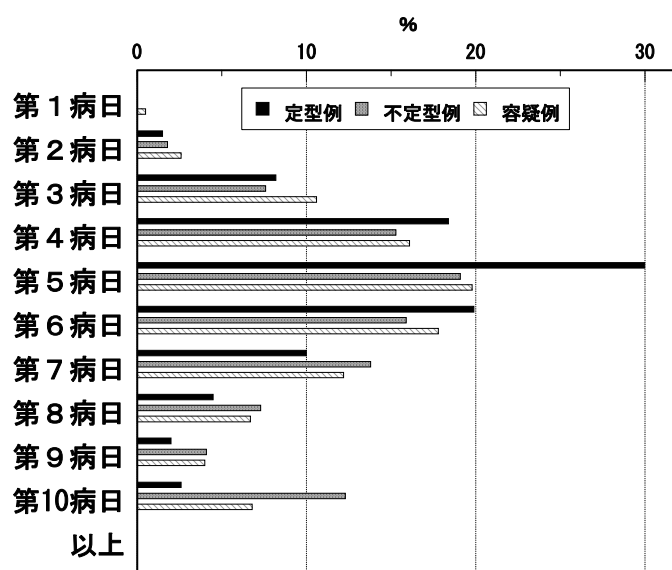
[図29] 性別、ガンマグロブリン投与開始日の分布



[図30] 年齢別、ガンマグロブリン投与開始日の分布



[図 3 1] 診断別、ガンマグロブリン投与開始日の分布



Ⅲ. 要約

1. 2年間の報告患者数は11,458名であった。
2. 月別患者数は男女とも冬および夏にやや増加し、秋は少なめであった。
3. 性、年齢別罹患率は男女とも0歳半ばにピークを示す一峰性のカーブであった。
4. 診断基準の一致度をみると、定型例84.3%、不定型例4.0%、容疑例11.6%であった。
5. 同胞例、再発例、心後遺症例の出現頻度は、それぞれ1.2%、2.9%、12.8%であった。
6. 初発から再発までの期間は3～5か月が最も多く、2回以上の再発例は0.2%みられた。
7. 死亡例は2年間に13人（男11人、女2人）報告され、0.1%を占めていた。
8. 心後遺症の内容では、冠動脈の瘤・拡大11.3%、巨大瘤1.0%、弁膜病変0.5%、狭窄0.1%、心筋梗塞0.1%であり、弁膜病変以外は男に高かった。年齢別にみると、いずれの病変も年齢による差はあまりみられなかったが、巨大瘤の出現率は2歳以上でやや高率にみられ、瘤・拡大の出現率は2歳未満の若年児にやや高率にみられた。
9. 患者の初診日は第4病日が最も多く、2歳未満の若年児がやや早く受診していた。
10. ガンマグロブリンの治療を受けた者は84.1%を占め、投与開始病日は第5病日が最も多く、1日あたり投与量は400mg/kgおよび200mg/kgの者が多かった。
11. 診断別にみた白血球数区分では、いずれも12000-16000 (μ l)の値で最も高かった。年齢別には、若年齢の方では高い値の者が多く、年齢が高くなるにつれて低い値の者が多かった。後遺症の出現率は高い値ほど高率にみられ、ガンマグロブリン使用総量の分布も数値の高い者ほど多かった。
12. 診断別にみたCRP値区分では、いずれも5.0-9.9 (mg/dl)の値で最も高く、年齢が高くなるにつれて高い値の者が増加していた。後遺症の出現率はCRP値が高いほど高率にみられ、ガンマグロブリン使用総量の分布も数値の高い者ほどやや多くなっていた。

おわりに

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究班として深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた全国1,730施設の医療機関名を巻末に付記します。

文献

- 1) 小児MCLS研究班(班長:神前章雄). 小児MCLS全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975;22(6):306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975;5(12):22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976;34(2):275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第5回全国調査結果の速報-. 小児科 1979;20(7):755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCLS(川崎病の多発) -第6回全国調査成績の速報-. 小児科 1981;22(1):53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983;24(1):53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985;26(9):1049-1053.
- 9) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987;28(9):1059-1066.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990;31(5):569-576.
- 11) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992;33(3):309-316.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994;35(1):61-73.
- 13) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986;37-51.
- 14) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988;18-31.
- 15) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54:271-276.
- 16) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987;80:58-62.
- 17) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988;158(6):1296-1301.
- 18) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995;95(4):475-479.
- 19) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995;149:779-783.

川崎病調査票 (第13回全国調査)

お願ひ、平成5年1月1日～平成6年12月31日の2年間に発症し、貴施設に受診した患者全員について記入して下さい。
 1. 症例がない場合も「施設に関する質問」をご記入の上、必ず本調査票をご返送下さい。
 2. 他施設へ紹介した患者、他施設から紹介された患者も含めます。

主治医(代表者)ご芳名
 ↓NO. は記入しないで下さい

NO.	ふりがな 患者氏名	発病時患者住所	性	生年月日	初診年月日	初診時 病日	診断の 確実度	ガンガの 投与ありの場合	今回の発症		検査所見 (最高値)	同胞例	心後遺症 後遺症ありの場合	死亡
									初発	再発				
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	
	〒	昭・平 年 月 日	1男 2女	平成 年 月 日	平成 年 月 日	病日	1 確実 A 2 確実 B 3 容疑	1 初発 2 再発	1 初発 初発時: 昭・平 年 月 日	白血球数	1 なし	1 巨大瘤 2 瘤・拡大 3 狭窄 4 心筋梗塞 5 弁膜病変	1 なし	

施設に関する質問 (本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

- 貴院のベッド数はいくつですか。 小児科一般病床 床 小児科一般病床 床 非常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
 1 はい 2 いいえ
- 貴院の小児科医は何人ですか。 非常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
 1 はい 2 いいえ
- 貴院では川崎病患者が入院したら、急性期経過中に回復して心断層エコー図検査が出来ますか。
 1 はい 2 いいえ
- 貴院では川崎病患者に対するガンガのリンの投与方式を決めていますか。
 1 はい (mg/kg× 日間) 2 いいえ

確定 A: 6つの主要症状のうち、5つ以上の症状あり
 確定 B: 4つの症状しかないが、冠動脈瘤(拡大)を伴う
 容疑: 診断の手引きに合致しないが、疑いがある

発病1カ月以降に冠動脈拡大(動脈瘤を含む)、狭窄(閉塞を含む)、心筋梗塞または弁膜病変の認められるとき(上記)も記入

死亡例に関する質問 (今回の報告のみでなく、前回まで生存として報告され、後に死亡した例も含めて記入して下さい)	氏名(ふりがな)	性	生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検の有無	死亡原因等
	1 昭・平	男	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	1 なし	
	2 昭・平	女	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	2 あり	
	1 昭・平	男	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	1 なし	
	2 昭・平	女	昭・平 年 月 日	昭・平 年 月 日	平成 年 月 日	2 あり	

住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい
 返送先
 〒329-04
 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1
 自治医科大学公衆衛生学教室気付
 川崎病研究班疫学調査事務局
 (0285-44-2111, 内線3109, 3104)

1994.12 厚生省川崎病研究班作成

第13回全国調査協力施設名 (都道府県内順不同)

北海道：

国療西札幌病院
 国立札幌病院
 国立療養所道北病院
 北大医学部附属病院
 NTT札幌病院
 札幌医科大学附属総合病院
 道立札幌肢体不自由児総合療育センター
 道立旭川肢体不自由児総合療育センター
 道立紋別病院
 道立羽幌病院
 市立札幌病院
 市立函館病院
 市立江別総合病院
 千歳市立総合病院
 市立三笠総合病院
 国民健康保険町立栗沢病院
 岩見沢市立総合病院
 市立美唄病院
 砂川市立病院
 市立赤平総合病院
 市立芦別病院
 深川市立総合病院
 市立旭川病院
 名寄市立総合病院
 市立室蘭総合病院
 白老町立国民健康保険病院
 町立茅室病院
 市立釧路総合病院
 市立根室病院
 町立中標津病院
 美幌町立国民健康保険病院
 市立稚内病院
 留萌市立総合病院
 栗山赤十字病院
 総合病院旭川赤十字病院
 伊達赤十字病院
 浦河赤十字病院
 清水赤十字病院
 総合病院釧路赤十字病院
 済生会小樽北生病院
 社会事業協会・富良野病院
 社会事業協会・余市病院
 社会事業協会・帯広病院
 厚生連総合病院札幌厚生病院
 厚生連沼田厚生病院
 厚生連総合病院旭川厚生病院
 厚生連総合病院網走厚生病院
 厚生連総合病院遠軽厚生病院
 北海道社会保険中央病院
 様似病院
 夕張市立総合病院
 日鋼記念病院
 王子総合病院
 津別病院
 函館五稜郭病院
 函館中央病院
 天使病院
 総合病院勤医協札幌病院
 (社福)根室隣保院附属病院
 幌東病院
 大原病院
 国療小樽病院
 曾我病院
 五輪橋産科婦人科小児科病院
 ふかざわ病院
 育愛会札幌東豊病院

札幌しらかば台病院
 愛生病院
 慶愛病院
 ふらの西病院
 自衛隊札幌病院
 (医療)富田病院
 金谷病院
 本別町国民健康保険病院
 旭川医科大学医学部附属病院
 (財)小児愛育協会附属愛育病院
 北海道療育園
 勤医協中央病院
 (医社)友愛会恵愛病院 精神科
 (医療)使徒ルカ会手稲ルカ病院
 道立小児総合保健センター
 愛静病院
 美唄労災病院
 道北勤医協 一条通病院
 熊石町国保病院
 町立厚岸病院
 小島病院
 恵庭第一病院
 市立士別総合病院
 八雲総合病院
 勤医協札幌北区病院
 札幌マタニティホスピタル
 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
 吉田病院
 勤医協札幌西区病院
 手稲溪仁会病院
 (医療)翰林会 稲積公園病院
 (医療法人)道南勤医協函館稜北病院
 (医療法人)北農会恵み野病院
 豊岡中央病院
 延山会苫小牧澄川病院
 太平洋炭鉱株式会社太平洋病院
 シロアム病院
 斜里町国民健康保険病院

青森県：

弘前大学医学部附属病院
 青森県立中央病院
 青森市民病院
 八戸市立市民病院
 国民健康保険五戸総合病院
 黒石市国保黒石病院
 浪岡町立病院
 国民健康保険鶴田町立中央病院
 国民健康保険五所川原市立西北中央病院
 公立金木病院
 鯨ヶ沢町立中央病院
 公立野辺地病院
 十和田市立中央病院
 むつ総合病院
 国保三戸中央病院
 八戸赤十字病院
 鳴海病院
 増田病院
 財団法人双仁会青森厚生病院
 青森県立はまなす学園
 市立三沢病院
 (医療)誠仁会 尾野病院
 弘前市立病院
 青森労災病院
 国立療養所岩木病院
 津軽保健生活協同組合健生病院

財団法人仁和小鹿病院
 医療法人正恵会石田温泉病院

岩手県：

岩手県立中央病院
 岩手県立釜石病院
 岩手県立宮古病院
 岩手県立花巻厚生病院
 岩手県立胆沢病院
 岩手県立磐井病院
 岩手県立高田病院
 盛岡市立病院
 釜石市民病院
 北上済生会病院
 (財)総合花巻病院
 一関病院
 盛岡友愛病院
 宝陽病院
 国立療養所盛岡病院
 国療釜石病院
 岩手県立山田病院
 岩手県立北上病院
 内丸病院
 川久保病院
 国保葛巻病院
 社団医療法人篤宿温泉病院

宮城県：

国立仙台病院
 国療宮城病院
 東北大学医学部附属病院
 JR仙台病院
 仙台通信病院
 仙台市立病院
 塩釜市立病院
 公立気仙沼総合病院
 公立志津川総合病院
 公立刈田総合病院
 公立黒川病院
 総合病院仙台赤十字病院
 石巻赤十字病院
 東北厚生年金病院
 東北公済病院
 仙台厚生病院
 (財)宮城厚生協会坂総合病院
 (医療)本多友愛会仙南病院
 南東北病院
 東北大加齢医学研究所附属病院
 国療西多賀病院
 仙台社保病院
 宮城健康保健病院
 光ヶ丘スペルマン病院
 東北労災病院
 自衛隊仙台病院
 (財)宮城厚生協会 長町病院
 宮城県拓桃医療療育センター
 医療法人徳洲会仙台徳洲会病院
 中嶋病院
 仙塩総合病院
 財団法人宮城厚生協会古川民主病院
 公立米谷病院

秋田県：

大館市立総合病院
 男鹿市立総合病院
 秋田市立秋田総合病院
 公立角館総合病院

公立横手病院
秋田赤十字病院
鹿角組合総合病院
山本組合総合病院
湖東総合病院
平鹿総合病院
（医療）愛生会 石田病院
中通病院
外旭川病院
医療法人青嵐会本荘第一病院
佐藤病院
秋田社会保健病院
大曲中通病院
公立米内沢総合病院
医療法人和成会今井病院
秋田県太平療育園
北秋中央病院
藤原記念病院
国療秋田病院

山形県：

山形県立中央病院
山形県立新庄病院
天童市立天童病院
山形市立病院済生館
北村山公立病院
鶴岡市立荘内病院
南陽市立総合病院
公立高島病院
長井市立総合病院
（医療）篠田好生会篠田総合病院
寒河江市立病院
山形大学医学部附属病院
鶴岡協立病院
順仁堂遊佐病院
国療山形病院
医療法人舟山病院

福島県：

国立郡山病院
福島県立医科大学附属病院
公立岩瀬病院
いわき市立総合磐城共立病院
いわき市立常磐病院
国保原町市立病院
福島赤十字病院
塙厚生病院
坂下厚生総合病院
社保福島二本松病院
（財）大原総合病院
（財）太田総合病院附属太田記念病院
（財）太田総合病院附属太田熱海病院
（財）寿泉堂総合病院
（財）竹田総合病院
（財）穴沢病院
（財）竹林病院
福島整肢療護園
財団法人大原総合病院附属大原医療センター
財団法人脳神経疾患研究所附属南東北病院
医療法人慈誠会猪又病院
新生会内科小児科佐藤病院
小高町立病院
国療福島病院
総合保原中央病院
福島県厚生農協組合連双葉厚生病院
（財）星総合病院
（財）松村総合病院
（医療）保科病院

（医療）土屋病院
医療法人社団慈泉会南湖病院
（社医）呉羽総合病院
医療法人慈久会 谷病院
済生会川俣病院
国立療養所翠ヶ丘病院
医療生協わたり病院
医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院
東北病院
福島県心身障害児総合療育センター
医療法人明信会今泉西病院
公立相馬総合病院

茨城県：

茨城県立こども福祉医療センター
茨城県立中央病院
水戸済生会総合病院
総合病院水戸協同病院
総合病院土浦協同病院
国公共済連水府病院
（医療）徳仁会 丸山小児科病院
総合病院東京医科大学霞ヶ浦病院
株式会社日立製作所多賀総合病院
根本病院
つくばセントラル病院
医療法人清風会豊和麗病院
北友会勝田病院
県立こども病院
那珂中央病院
ひたちなか母と子の病院
桜水会筑波病院
双葉会つくば双愛病院
県西総合病院
（医療）愛宣会 秦病院
株式会社日立製作所日立総合病院
筑波大学附属病院
（医療）精光会 宮崎病院
猿島赤十字病院
茨城県立コロニーあすなろ病院
（医療）仁愛会 茅根病院
（医療）愛正会 田尻ヶ丘病院
日立港病院
（財）筑波学園病院
（医療）厚友会 城西病院
友愛記念病院
高萩協同病院
医療法人清真会丹野病院
石岡市医師会病院
財団法人筑波メディカルセンター病院
医療法人筑波記念病院
きぬ医師会病院
医療法人修徳会植竹病院
守谷慶友病院
茨城西南医療センター病院

栃木県：

国立栃木病院
小山市民病院
栃木県県南総合病院
大田原赤十字病院
足利赤十字病院
済生会 宇都宮病院
上都賀総合病院
下都賀総合病院
石橋総合病院
塩谷総合病院
佐野厚生総合病院
宇都宮社会保険病院

古河記念病院
国療東宇都宮病院
皆藤病院
福田記念病院
矢板南病院
光南病院
自治医科大学附属病院
獨協医科大学病院
上野病院
黒須病院
今井病院
菅又病院
（医療）白澤病院
栃木県身体障害医療福祉センター
西方病院
とちの木病院

群馬県：

国立高崎病院
国立沼田病院
国立渋川病院
群馬大学医学部附属病院
群馬県立がんセンター東毛病院
桐生厚生総合病院
多野総合病院
伊勢崎市民病院
館林厚生病院
前橋赤十字病院
社保群馬中央総合病院
富士重工業健保組合総合太田病院
利根中央病院
伊勢崎福島病院
上毛泌尿器科記念善衆会病院
医療法人樹心会角田病院
本島総合病院
伊勢崎佐波医師会病院
群馬県済生会 前橋病院
前橋協立病院
（医療）慈光会 慈光会病院
重症心身障害児施設
はんなさわらび療育園

高木病院
希望の家療育病院
国療西群馬病院
群馬整肢療護園
高崎中央病院
太田福島総合病院
下仁田厚生病院

埼玉県：

国立西埼玉中央病院
国立埼玉病院
蕨市立病院
国保町立小鹿野中央病院
春日部市立病院
草加市立病院
総合病院小川赤十字病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
社保埼玉中央病院
川口工業総合病院
（財）鳩ヶ谷中央病院
（医社）東光会戸田中央総合病院
（医療）健仁会 益子病院
愛生会病院
丸山記念総合病院
医療法人宮崎病院
中田病院

クリニカル病院
指扇病院
聖心会南古谷病院
秩父市立病院
本庄総合病院
飯能中央病院
埼玉医科大学附属病院
浦和市立病院
国療東埼玉病院
埼玉厚生連幸手総合病院
（医社）新座志木中央総合病院
（医社）協友会 吉川中央病院
朝霞台中央総合病院
（医療）福寿会 埼玉草加病院
防衛医科大学校病院
（医療）聖仁会 西部病院
埼玉協同病院
大宮市医師会 市民病院
（医社）宗仁会 武蔵野病院
（医社）青葉会 新座病院
（医療）菅野総合病院
（医療）関越病院
（医療）武蔵野総合病院
（医療）誠壽会 上福岡総合病院
埼玉県立寄居こども病院
（医療）光仁会 春日部厚生病院
秋谷病院
医療法人社団協友会東川口病院
春日部秀和病院
独協医科大学越谷病院
東鷲宮病院
医療法人財団健和会みさと健和病院
埼玉筑波病院
医療法人一心会伊奈病院
医療法人ナトメック七里病院
志木市立救急市民病院
医療法人社団堀ノ内病院
埼玉医科大学総合医療センター
帯津三敬病院
関本記念病院
東松山市立市民病院
医療法人社団哺育会白岡中央病院
蓮田病院
小林病院
医療法人財団石心会狭山病院

千葉県：

国立千葉病院
国立精神・神経センター国府台病院
国療下志津病院
国立習志野病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県立佐原病院
千葉県立東金病院
浦安市市川市病院組合葛南病院
国保松戸市立病院
銚子市立総合病院
総合病院国保旭中央病院
国保八日市場市立病院
公立長生病院
国保国吉病院
国保直営総合病院君津中央病院
総合病院国保成東病院
成田赤十字病院
済生会船橋済生病院
社保船橋中央病院
川崎製鉄健保組合千葉病院
（医療）鉄蕉会 亀田総合病院

東京歯科大学市川総合病院
キッコーマン総合病院
財団法人化学療法研究会化学療法
研究所附属病院
千葉西病院
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院
高根病院
平和台病院
柏陽光病院
千葉県こども病院
東邦大学医学部附属佐倉病院
さつき会袖ヶ浦さつき台病院
野田病院
聖光会病院
日本医科大学附属千葉北総病院
国療千葉東病院
千葉社会保険病院
（医社）千葉健生病院
千葉県千葉リハビリテーションセンター
市川東病院
（医財）明理会 新松戸中央病院
（医社）東光会 北総白井病院
（医社）上総会 山之内病院
（医療）公明会 塩田病院
千葉労災病院
（医法）成春会 北習志野花輪病院
（医社）勤労者医協 船橋二和病院
（医社）協友会 船橋病院
（医社）協友会 柏厚生病院
千葉市立海浜病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
新八柱台病院
医療法人川崎病院
船橋市立医療センター
（医社）愛友会 流山病院
医療法人社団保健会谷津保健病院
帝京大学医学部附属市原病院
医療法人新都市医療研究会君津会
玄々堂君津病院
医療法人静和会中山病院

東京都：

国立がんセンター中央病院
国立国際医療センター
国立小児病院
国立大蔵病院
国立王子病院
東京大学医学部附属病院分院
東京大学病院
東京医科歯科大学病院
東京専売病院
関東通信病院
J R 東京総合病院
東京通信病院
大蔵省印刷局東京病院
東京都立築地産院
都立駒込病院
都立墨東病院
都立広尾病院
東京都立大塚病院
都立北療育医療センター
都立豊島病院
都立清瀬小児病院
青梅市立総合病院
日野市立総合病院
稲城市立病院
町田市民病院
公立昭和病院

日本赤十字社医療センター
葛飾赤十字産院
東京都済生会中央病院
社保中央総合病院
社保都南総合病院
社保蒲田総合病院
東京厚生年金病院
東京船員保険病院
日本通運健保東京病院
虎の門病院
総合病院三宿病院
国家公務員共済組合連合会立川病院
東京警察病院
三楽病院
聖路加国際病院
北里研究所病院
永寿総合病院
（財）日産厚生会 玉川病院
（社）至誠会 第二病院
練馬総合病院
（財）天誠会 武蔵境病院
緑成会病院
（医財）寿康会病院
（医社）江東病院
田園調布中央総合病院
（医社）大成会 長汐病院
（医社）関川病院
（医社）慈誠会 上板橋病院
（医財）梅田病院
（医）西新井病院
慈光会 堀切中央病院
（医社）同愛会病院
岩井総合病院
杏林大学病院
日本医科大学第一病院
日本大学駿河台病院
東京慈恵会医科大学病院
東京女子医科大学病院
慶応義塾大学病院
東京医科大学病院
日本医科大学病院
昭和大学病院
東邦大学 大橋病院
東邦大学 大森病院
東京女子医科大学 第2病院
日本大学 附属板橋病院
慈恵医科大学 附属青戸病院
慈恵医科大学 附属病院第3病院
小平記念東京日立病院
東芝病院
三井記念病院
母子愛育会附属愛育病院
（社福）聖母会 聖母病院
浅草寺病院
（社福）賛育会 賛育会病院
同愛記念病院
（社福）あそか会 あそか病院
久我山病院
東京医療生協組合 中野総合病院
東京衛生病院
（社福）勝楽堂病院
（社福）日本心身障害者協会
島田療育センター
（社福）鶴風会東京小児療育病院
南台病院
（社福）多摩済生病院
（医社）陽和会 西窪病院
（医社）時正会 佐々総合病院

北部セントラル病院
財団法人東京都保健医療公社東部地域病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院
りんご会東十条病院
まつしま産婦人科小児科病院
(財)東京都保健医療公社多摩南部地域病院
小金井太陽病院
三医会鶴川厚生病院
都立府中療育センター
東京都職員共済組合 青山病院
(医財)健康文化会 小豆沢病院
緑風荘病院
総合病院下田病院
樺島病院
森本病院
公立阿伎留病院
都立府中病院
板橋区医師会病院
(医社)誠志会 誠志会病院
レニア会 武谷病院
(医財)西武中央病院
日本医科大学 多摩永山病院
(医社)北病院
秋津療育園
都立八王子小児病院
東京健生病院
(医社)瑞心会 西荻中央病院
(医社)板橋中央産院
(医社)明芳会 高島平中央総合病院
(医社)水野病院
東光会 戸田中央総合病院分院第一病院
医療法人社団健生会 立川相互病院
医療法人社団誠和会白鬚橋病院
東京労災病院
王子生協病院
日本大学医学部附属練馬光が丘病院

神奈川県：

国立横浜病院
国立横須賀病院
国立相模原病院
国療神奈川県
神奈川県立足柄上病院
横浜市立港湾病院
横浜市立大学医学部附属浦舟病院
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
三浦市立病院
大和市立病院
横浜赤十字病院
(財)済生会 神奈川県病院
社保横浜中央病院
健保総合 川崎中央病院
社保 相模野病院
住友重機械健保組合 浦賀病院
国公共済連横浜南共済病院
国公共済連総合病院横須賀共済病院
国公共済連 稲田登戸病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
(財)神奈川県警友会警友総合病院
平和病院
京浜総合病院
総合川崎臨港病院
(医療)愛仁会 太田総合病院
(医社)亮正会総合高津中央病院
(株)日立製作所 戸塚総合病院
総合病院 聖ヨゼフ病院

(社福)日本医療伝道会総合病院衣笠病院
(社福)湘南福祉協会総合病院湘南病院
総合相模更生病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
西横浜国際総合病院
横浜市愛児センター
石田産婦人科病院
相模原療育園
横浜労災病院
横浜市立大学医学部附属病院
三喜会横浜新緑病院
国立横浜東病院
関東労災病院
横浜市小児アレルギーセンター
総合病院秦野赤十字病院
厚生農協連総合病院伊勢原協同病院
国公共済連 虎の門病院分院
(社団)日本厚生団長津田厚生総合病院
総合病院横浜通信病院
神奈川県立こども医療センター
藤沢市民病院
(財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院
小澤病院
小林病院
昭和大学 藤が丘病院
東海大学病院
北里大学病院
帝京大学医学部 附属溝口病院
川崎医療生協 川崎協同病院
神奈川県リハビリテーション病院
済生会 横浜市南部病院
(医社)明芳会横浜旭中央総合病院
神奈川県衛生看護専門学校附属病院
(医社)青葉会 牧野記念病院
恒春会 馬嶋病院
(医療)誠医会 宮川病院
横須賀市立市民病院
相模原中央病院
(医療)徳洲会 大和徳洲会病院
桜ヶ丘中央病院
(医療)徳洲会 茅ヶ崎徳洲会総合病院
(医社)愛友会 金沢文庫病院
プラザ記念病院
(医社)仁愛会 海老名総合病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
医療法人社団協友会 屏風ヶ浦病院
医療法人財団石心会川崎幸病院
川崎市立井田病院
新中川病院
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院
田園都市厚生病院

新潟県：

国立高田病院
新潟大学医学部附属病院
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立新発田病院
新潟県立吉田病院
新潟県立小出病院
新潟県立十日町病院
新潟県立十日町病院
水原郷病院
巻町国保病院
町立津南病院
総合病院長岡赤十字病院
済生会 新潟病院
済生会 三条病院
豊栄病院

三条総合病院
中央総合病院
栃尾郷病院
刈羽郡総合病院
上越総合病院
頸南病院
糸魚川総合病院
上村病院
(医療)立川総合病院
新潟県厚生農業協同組合連合会
中条病院
済生会新潟第二病院
県立妙高病院
新潟市民病院
聖園病院
宮内病院
新潟南病院
新潟こばり病院
南部郷総合病院
両津市民病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新津医療センター病院
国立療養所寺泊病院
国民健康保険町立
ゆきぐに大和総合病院
新潟県立坂町病院
長岡療育園

富山県：

富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
黒部市民病院
新湊市民病院
市立砺波総合病院
富山赤十字病院
富山県済生会 高岡病院
厚生連高岡病院
厚生連滑川病院
社会保険 高岡病院
桜井病院
国療北陸病院
井波厚生病院
氷見市民病院
富山医科薬科大学附属病院
富山県立高志学園
医療法人社団翠十字会誠友病院
富山医療生活協同組合富山協立病院
富山県高志リハビリテーション病院

石川県：

国立金沢病院
金沢大学医学部附属病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
国保小松市民病院
公立加賀中央病院
町立富来病院
国保輪島病院
金沢赤十字病院
済生会金沢病院
公立松任石川中央病院
公立鶴来総合病院
社保鳴和総合病院
国公共済連 北陸病院
金沢聖霊総合病院
蓮井小児科病院
恵寿総合病院
恵愛病院

産婦人科荒木病院
国保町立根上総合病院
国保珠州市総合病院
城北病院
金沢医科大学病院
石川整肢学園
金沢西病院
国療七尾病院
公立穴水総合病院
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院
国民健康保険志雄病院

福井県：

国立療養所福井病院
国立鯖江病院
福井県立病院
町立三国病院
市立敦賀病院
公立小浜病院
福井赤十字病院
福井県済生会病院
社保勝山病院
（医療）安川病院
国立療養所北潟病院
新田塚医療福祉センター福井総合病院
福井循環器病院
（医療）福井愛育病院
社保高浜病院
総合病院福井厚生病院
産婦人科・小児科玉井病院

山梨県：

山梨県立中央病院
市立甲府病院
富士吉田市立病院
巨摩共立病院
加納岩総合病院
都留市立病院
国療西甲府病院
甲府共立病院
上野原町立病院
山梨医科大学
市川大門町立病院
石和町立峡東病院
三枝病院

長野県：

国立東信病院
国立松本病院
国療東長野病院
長野県立木曾病院
諏訪中央病院
市立大町総合病院
豊科赤十字病院
長野赤十字病院
長野県厚生農協連 佐久総合病院
長野県厚生農協連 安曇病院
長野厚生農協連 新町病院
（医療）慈泉会 相澤病院
長野中央病院
N T T長野病院
県立こども病院
（医療）聖徳会 西軽井沢病院
飯田病院
国療東松本病院
長野県厚生農協連小諸厚生総合病院
町営辰野総合病院
飯田市立病院

城西病院
国保依田窪病院
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
医療法人新生病院
長野県厚生農業組合連合会松代総合病院
健和会病院
松本協立病院

岐阜県：

国療恵那病院
岐阜県立岐阜病院
岐阜県立多治見病院
国保関ヶ原病院
大垣市民病院
美濃市立美濃病院
白鳥町国保白鳥病院
土岐市立総合病院
総合病院中津川市民病院
金山町国保金山病院
総合病院 高山赤十字病院
岐阜県厚生農協連 養老中央病院
岐阜県厚生農協連 揖斐総合病院
岐阜県厚生農協連 総合病院中濃病院
岐阜県厚生農協連 総合病院昭和病院
公立学校共済組合 東海中央病院
博愛会総合病院
木沢記念病院
みどり病院
操産科婦人科病院
海津郡医師会病院
産科婦人科小児科小川病院
県立希望ヶ丘学園
岐阜大学医学部附属病院
国保神岡町病院
国療岐阜病院
国保坂下病院
岐阜赤十字病院
藤掛第一病院
河村病院
医療法人白水会白川病院
岐阜県厚生連久美愛病院

静岡県：

国立静岡病院
国立熱海病院
国立東静岡病院
国立浜松病院
国療天竜病院
伊豆通信病院
静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
沼津市立病院
富士市立中央病院
清水市立病院
藤枝市立志太総合病院
焼津市立総合病院
市立島田市民病院
榛原総合病院
掛川市立総合病院
共立菊川総合病院
公立森町病院
磐田市立総合病院
袋井市立袋井市民病院
共立湖西総合病院
総合病院 静岡赤十字病院
伊豆赤十字病院
中駿赤十字病院
総合病院 浜松赤十字病院

静岡済生会総合病院
総合病院 静岡厚生病院
総合病院 清水厚生病院
遠州総合病院
県西部浜松医療センター
聖隷福祉事業団総合病院
聖隷三方原病院
日本大学医学部付属稲取病院
国立湊病院
（社）有隣厚生会 富士病院
浜松医科大学附属病院
浜松労災病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院
社保桜ヶ丘総合病院
社保保険浜松病院
浜松北病院
みなみ病院
富士小山病院
町立浜岡病院
引佐赤十字病院

愛知県：

国立豊橋病院
国療中部病院
名古屋大学病院分院
名古屋大学病院
名古屋通信病院
名古屋市立東市民病院
名古屋市立城西病院
名古屋市立大学病院
名古屋市立守山市民病院
豊橋市民病院
市立岡崎病院
市立半田病院
小牧市民病院
豊川市民病院
公立尾陽病院
西尾市民病院
蒲郡市民病院
稲沢市民病院
常滑市民病院
新城市民病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
海南病院
愛知県厚生農協連 更生病院
愛知県厚生農協連 昭和病院
愛知県厚生農協連 渥美病院
社保中京病院
名鉄病院
東海病院
名城病院 小児循環器科
名古屋掖済会病院
（財）名港福厚協会 臨港病院
上飯田第一病院
岡田病院
総合大雄会病院
刈谷総合病院
（医療）光生会病院
三菱名古屋病院
トヨタ記念病院
聖霊会 聖霊病院
愛知県立第二青い鳥学園
蒲郡厚生館病院
偕行会 名古屋共立病院
秋田病院
名南病院
一心会加藤産婦人科病院

碧南市民病院
国療東名古屋病院
名古屋市立緑市民病院
東海産業医療団中央病院
清水会 相生山病院
中部労災病院
N T T 東海総合病院
南生協病院
藤田保健衛生大学病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院
愛知医科大学病院
愛知県コロニーこぼと学園
愛知県コロニー中央病院
みなと医療生協立総合病院
豊岡会 豊橋中央病院
（医療）宝美会 青山病院
（医療）志聖会 犬山中央病院
愛知県厚生農協連 尾西病院
（医療）済衆館病院
愛知県厚生農協連 知多厚生病院
医療法人財団新和会八千代病院
医療法人幸会南陽病院
国立療養所豊橋東病院
中西病院
一宮市立市民病院今伊勢分院
医療法人青山病院
医療法人宏和会山口病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会病院
安藤病院
三好中央病院

三重県：

国療鈴鹿病院
国立津病院
三重大学病院
三重県立一志病院
三重県立志摩病院
桑名市民病院
市立四日市病院
（総合病院）松阪市民病院
市立伊勢総合病院
尾鷲総合病院
紀南病院
山田赤十字病院
済生会松阪総合病院
三重県厚生連 松阪中央総合病院
社保羽津病院
（財）四日市港湾福利厚生協会築港病院
山本総合病院
二宮病院
岡波総合病院
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院
国療三重病院
慶応大学伊勢慶応病院

滋賀県：

大津市民病院
水口町国保水口市民病院
公立甲賀病院
彦根市立病院
市立長浜病院
伊香郡病院組合立湖北総合病院
公立高島総合病院
長浜赤十字病院
済生会滋賀県病院
重症心身障害児施設第一びわこ学園
重身心身障害児施設第二びわこ学園
国立八日市病院

守山市民病院
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保険医療センター
野洲病院
国療紫香楽病院
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院
日野記念病院
友仁山崎病院

京都府：

国立舞鶴病院
京都大学病院
京都専売病院
京都市立病院
公立南丹病院
京都第二赤十字病院
京都第一赤十字病院
舞鶴赤十字病院
社会保険京都病院
舞鶴共済病院
総合病院 日本バプテスト病院
（社）愛生会 山科病院
堀川病院
総合病院 京都南病院
（社会福祉法人）京都博愛会病院
富田病院
（社福）宇治病院
国療南京都病院
三菱京都病院
国療宇多野病院
京都通信病院
京都社会事業財団 京都桂病院
関西医科大学男山病院
公立山城病院
（社福）聖ヨゼフ会聖ヨゼフ整肢園
蘇生会総合病院
（医療）医仁会 武田総合病院
関西医科大学附属洛西ニュータウン病院
（医療）宇治徳洲会病院
（医療）啓信会 京都木津川病院
（医療）医誠会 富士原病院
金井病院
社団法人京都保健会京都民医連中央病院
洛和会 音羽病院
京都市桃陽病院
第一岡本病院
医療法人和松会六地藏総合病院
私立京都八幡病院
医療法人亀岡病院
重症心身障害児施設花ノ木医療福祉センター
京都府立医大小児疾患研究施設内科部門

大阪府：

国立大阪南病院
大阪大学医学部附属病院
大阪通信病院
大阪鉄道病院
大阪府立病院
大阪府立十三市民病院
大阪府立住吉市民病院
市立池田病院
市立豊中病院
市立吹田市民病院
市立枚方市民病院
東大阪市立中央病院
八尾市立病院
泉大津市立病院
市立岸和田市民病院

市立貝塚病院
市立泉佐野病院
大阪赤十字病院
済生会 中津病院
大阪府済生会 泉尾病院
済生会野江病院
済生会 吹田病院
済生会 茨木病院
大阪厚生年金病院
大阪船員保険病院
大食連健保長堀病院
新香里病院
田附興風会 北野病院
住友病院
大阪掖済会病院
日本生命済生会 日生病院
聖バルナバ病院
大阪附警察協会大阪警察病院
（財）第一病院（労働衛生センター）
（財）西淀病院
浅香山病院
（医療）きっこう会
総合病院多根病院
彰療会 大正病院
景岳会総合病院 南大阪病院
同仁会 耳原総合病院
宝生会 P L 病院
関西医科大学香里病院
関西医科大学病院
関西電力病院
大阪暁明館病院
大阪回生病院
淀川キリスト教病院
千里保健医療センター新千里病院
真美会 中野こども病院
野田記念病院
田中会田中病院
医誠会摂津医誠会病院
医療法人東和会病院
五月会青山第二病院
野上病院
朋愛会 サンタマリア病院
三世会森本病院
錦秀会阪和住吉総合病院
大阪市立総合医療センター
小児循環器内科
至道会伊藤病院
三上会総合病院東香里病院
白卯会白井病院
市立柏原病院
大阪第二警察病院
仙養会 北摂病院
国立泉北病院
大阪労災病院
国立循環器病センター
大阪北通信病院
市立松原病院
和泉市立病院
高槻赤十字病院
星ヶ丘厚生年金病院
愛仁会 千船病院
清恵会病院
サザカム会 三国丘病院
岸和田徳洲会病院
友隣会 協立病院
枚方療育園
近畿大学医学部附属病院
温心会 堺温心会病院

大阪府済生会 富田林病院
信愛会 交野病院
大阪府立羽曳野病院
結核予防会大阪府支部大阪病院
(医療) 公道会病院
誠会 城東中央病院
協和会 北大阪病院
錦秀会 阪和泉北病院
以和貴会 北条病院
大阪府立身体障害者福祉センター病院
箕面市立病院
茨木医誠会病院
友誼会総合病院
修仁会 新生病院
祐生会 みどりヶ丘病院
協仁会 小松病院
守口敬任会病院
東大阪生協病院
徳洲会 八尾徳洲会病院
大阪府立母子保健総合医療センター
阪南市立病院
新金岡豊川総合病院
田中北野田病院
泉北記念病院
康生会 泉佐野優人会病院
仁生会 内藤病院
同友会 共和病院
愛替会浜田病院
紀和会 正風病院
生長会 ベルランド総合病院
和敬会 寝屋川南病院
市立藤井寺市民病院
暁美会 田中病院
大植会葛城病院
医療法人河崎会河崎病院

兵庫県：

国立姫路病院
神戸大学病院
関西労災病院
兵庫県立尼崎病院
兵庫県立塚口病院
兵庫県立淡路病院
神戸市立中央市民病院
兵庫県立加古川病院
明石市立市民病院
市立三木市民病院
公立豊岡病院
西宮市立中央病院
加古川市立市民病院
市立川西病院
市立伊丹病院
公立八鹿病院
公立御津病院
高砂市民病院
小野市民病院
赤穂市民病院
姫路赤十字病院
柏原赤十字病院
社保神戸中央病院
公学共済 近畿中央病院
医療法人財団 神戸海星病院
神戸掖済会病院
(医療) 川崎病院
(医療) 明和病院
神鋼病院
広畑製鉄所病院

石川島播磨重工業健保組合播磨病院
六甲アイランド病院
枚方療育園さくら療育園
公立香住病院
神戸赤十字病院
(医療) 一葉会 佐用共立病院
砂子療育園
神戸通信病院
兵庫県立こども病院
公立社病院
公文病院
兵庫医科大学病院
(医療) 薫風会 佐野病院
関西青少年サナトリウム
(医療) 尚和会 第一病院
尼崎医療生協病院
(医療) 協和会協立病院
国立加古川病院
神鋼加古川病院
仙齡会 はりま病院
(医療) 和同会三木自由ヶ丘病院
私立吉川病院
公立神崎総合病院
兵庫県立柏原病院
国立篠山病院
東神戸病院
国立神戸病院
市立加西病院
神戸朝日病院
医療法人慈恵会 新須磨病院
神戸徳洲会病院
神戸アドベンチスト病院
真星病院
医療法人 パルモア病院
宝塚市立病院
医療法人順心会 順心病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院
公立浜坂病院

奈良県：

国立奈良病院
奈良県立医科大学病院
榛原町立榛原総合病院
大和高田市立病院
町立大淀病院
済生会 奈良病院
奈良社会保険病院
天理よろづ相談所病院
土庫病院
香芝旭ヶ丘病院
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター
国療西奈良病院
奈良県立奈良病院
奈良県立五條病院
岡谷病院
奈良県立三室病院
東生駒病院
済生会 中和病院
済生会御所病院
東大寺整肢園
清心会 桜井病院

和歌山県：

和歌山県立医科大学病院
和歌山県立医科大学病院紀北分院
海南市民病院
国保那賀病院
国保橋本市民病院

国保日高総合病院
社保紀南総合病院
国保古座川病院
総合病院新宮市立市民病院
日本赤十字社和歌山医療センター
済生会 有田病院
医療法人共栄会名手病院
榎本病院
(医療) 久仁会宇都宮胃腸肛門病院
国療和歌山病院
那智勝浦町立温泉病院
労働福祉事業団 和歌山労災病院
和歌山生協病院
国立南和歌山病院

鳥取県：

国立米子病院
鳥取大学病院
鳥取県立中央病院
鳥取市立病院
国保智頭病院
鳥取赤十字病院
鳥取県済生会 境港総合病院
博愛病院
鳥取生協病院
西伯町国民健康保険西伯病院

島根県：

国立大田病院
国立浜田病院
島根県立中央病院
公立雲南総合病院
済生会 江津総合病院
津和野共存病院
日原共存病院
平成記念病院
松江生協病院
島根医科大学病院
国療松江病院
安来第一病院
島根整肢学園
松江記念病院
益田地域医療センター医師会病院

岡山県：

岡山大学病院
総合病院 岡山市立市民病院
倉敷市立児島市民病院
市立井原市民病院
総合病院 岡山赤十字病院
岡山済生会総合病院
川崎医科大学附属川崎病院
(財) 倉敷中央病院
(財) 弘仁会 総合病院玉島病院
総合病院 津山中央病院
光生病院
(医) 水和我会 水島中央病院
水島第一病院
新見中央病院
総合病院 落合病院
柵原病院
総合病院 水島協同病院
金田病院
倉敷平成病院
平病院
同仁会 金光病院
旭川児童院
美作中央病院

川崎医科大学病院
国療南岡山病院
重井医学研究所附属病院
南くらしき病院
川鉄水島病院
清梁会 戸田病院
笠岡第一病院
岡山労災病院
倉敷北病院
造山会 まきび病院

広島県：

国立呉病院
国立福山病院
国立大竹病院
国療広島病院
広島大学病院
広島鉄道病院
広島通信病院
県立安芸津病院
社保広島市民病院
世羅中央病院
公立三次中央病院
広島赤十字・原爆病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
厚生連 広島総合病院
日立造船健保因島総合病院
広島記念病院
呉共済病院
中国電力株式会社 中電病院
総合病院 三菱三原病院
マツダ株式会社 マツダ病院
呉芸南病院
済生会広島病院
千代田中央病院
真愛病院
尾道市立市民病院
日本鋼管福山病院
広島市立舟入病院
福山市市民病院
広島医療生協広島共立病院
ワカサ病院
広島市立安佐市民病院
中国労災病院
県立身体障害者リハビリテーションセンター
公立学校共済組合 中国中央病院
総合病院三愛
多田病院
西本会 安浦病院
三原市医師会病院
公立みつぎ総合病院
正岡病院
光仁会 梶川病院
松田病院
樹章会 本永病院
里仁会 興生総合病院

山口県：

国立下関病院
国立岩国病院
国立山口病院
山口県立中央病院
下関市立中央病院
総合病院 光市立病院
小野田市立病院
山陽中央総合病院

共立美東国保病院
総合病院 山口赤十字病院
済生会 下関総合病院
周東総合病院
小郡第一総合病院
長門総合病院
社保下関厚生病院
社保徳山中央病院
オープンシステム徳山医師会病院
神徳会 三田尻病院
日立病院
山口労災病院
国療山陽荘病院
同仁会 徳山記念病院
元洋会 森山病院
国療柳井病院
済生会 山口総合病院
宇部興産 中央病院
大和病院
緑山会 鹿野博愛病院
宇部協立病院

徳島県：

国立徳島病院
徳島大学病院
徳島県立中央病院
徳島県立三好病院
徳島市民病院
町立半田病院
国保勝浦病院
小松島赤十字病院
阿南共栄病院
厚生連 麻植協同病院
阿南医師会中央病院
徳島県立海部病院
阿波病院
徳島県立ひのみね整肢医療センター
ひのみね学園
(医療) 雙立会 頑心館病院
田中病院

香川県：

国立善通寺病院
香川県立中央病院
大川総合病院
土庄町国保土庄中央病院
総合病院 坂出市立病院
高松赤十字病院
屋島総合病院
滝宮総合病院
社保栗林病院
麻田総合病院
国療香川小児病院
香川県済生会病院
坂出聖マルチン病院
香川医科大学病院
高松平和病院
井下病院

愛媛県：

国療愛媛病院
愛媛県立中央病院
愛媛県立今治病院
愛媛県立伊予三島病院
愛媛県立南宇和病院
町立野村病院
市立宇和島病院
町立吉田総合病院

総合病院松山赤十字病院
西条中央病院
住友別子病院
高岡眼科・小児科病院
公立学校共済組合四国中央病院
愛媛労災病院
(財法) 積善会附属十全総合病院
愛媛大学病院
総合病院 松山市民病院
愛媛県立新居浜病院
済生会今治病院
美須賀病院
松山ベテル病院
大洲市立大洲病院

高知県：

国立高知病院
高知県立中央病院
高知県立宿毛病院
仁淀地区国保組合病院
高知市立市民病院
土佐市立土佐市民病院
高知赤十字病院
高知県農協総合病院
須崎くろしお病院
聖真会 渭南病院
山本病院
高知県立西南病院
新松田会 愛宕病院
島本病院
第1希望の家
(医療) 仁生会 三愛病院
高知医科大学病院
国療東高知病院
(医療) 高田会 高知記念病院
(医療) 永島会 永井病院
高知県立安芸病院

福岡県：

国立小倉病院
国立福岡中央病院
国療南福岡病院
国療福岡東病院
九州大学病院
福岡通信病院
福岡県立柳川病院
北九州市立門司病院
北九州市立医療センター
北九州市立八幡病院
北九州市立戸畑病院
大牟田市立病院
田川市立病院
筑後市立病院
八女公立病院
福岡赤十字病院
筑前山田赤十字病院
福岡県済生会 福岡総合病院
九州厚生年金病院
新小倉病院
浜の町病院
公立学校共済 九州中央病院
社保筑豊病院
福岡記念病院
久留米大学病院
八幡製鉄所病院
飯塚病院
社保小倉記念病院
宗像医師会病院

福岡青州会病院
水北第一病院
やまびこ学園
宗像水光会総合病院
聖和記念病院
清心会久留米記念病院
筑豊労災病院
千早病院
恵光会 原病院
森本病院
国立病院九州がんセンター
鞍手町立病院
聖ヨゼフ園
慈恵曾根病院
健和総合病院
正信会 水戸病院
ゆうかり病院
町立芦屋中央病院
産業医科大学病院
福岡大学病院
総合病院千鳥橋病院
北九州市立総合療育センター
福岡市立こども病院感染症センター
生松原病院
米の山病院
徳洲会 福岡徳洲会病院
太刀洗病院
牧山中央病院
甘木朝倉医師会病院
(医療)敬天会 東和病院
福岡市民病院
寺沢病院
牟田病院
大牟田共立病院
菅原病院
三池病院
水巻共立病院
健和会京町病院
福岡県立粕屋新光園
井上会 篠栗病院
糸田町立緑ヶ丘病院
社会保険田川病院

佐賀県：

国立佐賀病院
国立嬉野病院
佐賀県立病院 好生館
唐津赤十字病院
社保佐賀病院
ひらまつ病院
国療東佐賀病院
社保浦之崎病院
国立肥前療養所
佐賀医科大学病院
清明会 鹿毛病院
山元外科病院
溝上病院
至慈会 高島病院

長崎県：

国立長崎中央病院
国療川棚病院
国立小浜病院
長崎大学病院
長崎市立市民病院
佐世保市立総合病院
大村市立病院
老岐公立病院

健保諫早総合病院
佐世保共済病院
長崎記念病院
小江原中央病院
敬仁会 松浦病院
長崎造船所病院
長崎原爆病院
井上病院
国療長崎病院
聖家族会みさかえの園むつみの家
長崎県立島原温泉病院
平戸市立南部病院
江迎病院
長崎県済生会病院
日浦病院
聖家族会みさかえの園あゆみの家
菊地病院
国立対馬病院
対馬いづはら病院
田上病院
萌愛会長崎セントノヴァ病院
平成会 女の都病院
上五島病院

熊本県：

国立熊本病院
N T T九州病院
自衛隊熊本病院
熊本市民病院
菊水町立病院
小国公立病院
水俣市立湯之見病院
球磨郡公立多良木病院
上天草総合病院
国保河浦町立病院
熊本赤十字病院
健保人吉総合病院
総合病院熊本中央病院
慶徳加来病院
西合志病院
熊本県こども総合療育センター
熊本労災病院
愛育会 福田病院
悠愛病院
牛深市民病院
九州記念病院
天草病院
熊本地域医療センター
国療菊池病院
坂梨会 阿蘇温泉病院
丸田病院
はまゆう療育園
熊本託麻台病院
竜山病院
玉名地域保健医療センター
菊池中央病院
城南病院

大分県：

国立別府病院
国立中津病院
大分県立病院
東国東地域国保総合病院
佐賀関町国保病院
大分県厚生連鶴見病院
藤本小児病院
大分市医師会立アルメイダ病院
国立大分病院

大分健生病院
健保南海病院
西田病院
医療法人財団天心堂へつぎ病院
大分岡病院
長門莫記念会 長門記念病院
大分県立三重病院
竹田医師会病院

宮崎県：

県立宮崎病院
小林市立市民病院
高千穂町国保病院
串間市国保病院
都城市郡医師会病院
育生会井上病院
国療宮崎東病院
宮崎医科大学付属病院
宮崎県済生会日向病院
隆徳会 鶴田病院

鹿児島県：

国立南九州中央病院
国立指宿病院
鹿児島大学病院
鹿児島市立病院
出水市立病院
八反丸病院
サザン・リージョン病院
中村温泉病院
鹿児島こども病院
児玉上前共立病院
県立大島病院
国療南九州病院
総合病院鹿児島生協病院
やまびこ整肢学園
出水郡医師会立阿久根市民病院
肝属郡医師会立病院
昭南病院
鹿児島市医師会病院
鹿児島県立薩南病院
曾於郡医師会立病院
徳洲会 鹿児島徳洲会病院
三宅病院
財団法人今給黎総合病院
大隈鹿屋病院
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院

沖縄県：

北部病院
球陽会 海邦病院
社団法人北部地区医師会病院
総合病院沖縄赤十字病院
琉球大学病院
県立八重山病院
沖縄協同病院
沖縄整肢療護園
沖縄県立南部病院
沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
もとぶ野毛病院
与勝病院
中部徳洲会病院
かりゆし会ハートライフ病院
中部協同病院
潮平病院
沖縄県立沖縄療育園
医療法人信和会沖縄第一病院
八重瀬会 同仁病院
与那原中央病院